

4年生用

2021年度以前入学生用

教 育 要 項

2024年度開講科目



順天堂大学 医療看護学部

JUNTENDO UNIVERSITY Faculty of Health Care and Nursing

目 次

授業科目			学年	時期	頁数
人間と教養	人間と言語表現	医療英語講読II(中級)	4	前期	1
看護の理論と方法	ライフステージと看護	小児看護学実習	3・4	後期	4
		成人看護学実習I	3・4	後期	7
		成人看護学実習II	3・4	前期	9
		高齢者看護学実習	3・4	後期	11
	ウィメンズヘルスと看護	母性看護学実習	3・4	前期	13
		助産診断技術学II(妊娠・分娩期の助産技術)	4	前期	15
		助産診断技術学III(分娩介助技術)	4	前期	17
		助産診断技術学IV(産褥期)	4	前期	19
		助産診断技術学V(新生児・乳児期)	4	前期	21
		助産管理	4	前期	23
		周産期の医療安全	4	前期	25
	助産学実習	4	後期	27	
	ソーシャルライフと看護	精神看護学実習	3・4	前期	29
		在宅看護学実習	3・4	前期	31
		公衆衛生看護学実習I(行政・地域)	4	後期	33
		公衆衛生看護学実習II(産業)	4	後期	36
医療看護の統合と発展	医療看護研究II	4	通年	38	
	医療と看護政策	4	前期	40	
	救急看護	4	前期	42	
	統合実習	4	前期	44	
	順天堂の先端医療と看護	2～4	前期	46	
	ナーシング・スキルアップ	4	後期	48	
	災害看護	4	前期	51	
	多文化の医療と看護(海外研修)	2～4	通年	53	

科目名	医療英語講読II (中級)	必修・選択	選択
英語科目名	Medical English Reading II	対象学年	4年
開講学期	前期	単位数	1単位
代表教員	金子 育世	ナンバリング	ANL14A1
担当教員	金子 育世、河野 世莉奈	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	これまでの英語学習を基礎に、医療系のニューズレター、医療記事、論文などを中心に読解練習を重ね、医療系の語彙、表現を学び、さまざまな医療文献が読める英語力を養う。また、大学院進学や留学なども視野に入れ、医療英語とともに、語彙、リスニング、スピーキング練習も行い、充実した英語基礎力を身につける。				
授業の位置づけ	この科目は「人間と言語表現」に位置付けられ、実践的な英語運用能力の中でも読解力を向上させるために4年次前期に学ぶ科目である。3年次までに培った英語力や知識を応用しながら医療文献を読み理解することで、グローバルに活躍できる医療従事者となる素地を作る科目でもある。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP1-IV、◎DP4-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 特に難解でなければ、ほとんどの医療記事・論文などが読めるようになる。 医療系の用語・語彙を理解し、医療文献の内容を理解できる。 テーマに沿って必要な文献や情報を収集し、ディスカッションを通して意見を交換することができる。 自分の関心のある問題についての意見を、英作文や英語でのプレゼンテーションにより発信できる。 				
先修要件					
関連科目	医療英語講読I (初級) (3年後期選択)				
学修上の注意	テキストのReading部分の不明な単語は辞書で調べ、予習をして授業に臨むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	筆記試験 (30%)、復習課題 (30%)、プレゼンテーション (30%)、授業参画度 (10%) で総合的に評価する。				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 標準的な医療記事・論文などを読むことができるか 医療系の用語・語彙を理解しているか テーマに沿った文献や情報を収集し、意見交換することができるか 関心のある問題について自分の意見を発信することができるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<ul style="list-style-type: none"> 復習課題の結果は、次の授業までに返却し、解説する。 課題等に対するフィードバックの希望者には随時メールで受け付ける。 試験は採点后に返却し、必要に応じてフィードバックを与える。 					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	Because We Care --English for Healthcare Professionals (Second Edition)	Maki Inoue and Tadashi Ihara	セーンゲージ ラーニング	9784863123687	
参考文献					
John S. Lander, Movie English (Asahi Press)					
『看護英語辞典』 (医学書院) Oxford Advanced Learner's Dictionary					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時 (事前にメールで連絡のこと) ・金子: ikaneko@ ・河野: s.kono.me@				
備考	シラバス内の授業計画におけるテキスト“Because We Care”は「BWC」、 “Movie English”は「ME」と表記する。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	金子河野	オリエンテーション 医療英語学習法：効率的な学び方 [ME] Unit 10: Big Hero 6 『ベイマックス』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 10の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ英語論文の読み方と[ME]Unit 10の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
2	金子河野	[BWC] Unit 8: Reproductive System 生殖器に関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 8の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
3	金子河野	医療系の記事・論文・ニュースレターの読み方 [ME] Unit 11: Third Person 『サード・パーソン』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 11の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ英語論文の読み方と[ME]Unit 11の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
4	金子河野	[BWC] Unit 9: Endocrine System 内分泌に関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 9の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
5	金子河野	医療系の記事・論文・ニュースレターの読み方 & 検索の仕方 [ME] Unit 12: 12 Years a Slave 『それでも夜は明ける』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 12の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ英語論文の読み方・検索方法と[ME]Unit 12の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
6	金子河野	[BWC] Unit 10: Mental Disorder 精神疾患に関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 10の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
7	金子河野	医療系の記事・論文・ニュースレターの検索の仕方 [ME] Unit 13: The Butler 『大統領の執事の涙』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 13の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ英語論文の検索方法でプレゼンで取り上げる論文を決める。 [ME]Unit 13の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
8	金子河野	[BWC] Unit 11: Cancer がんに関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 11の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)
9	金子河野	プレゼンテーションの説明 & 準備について [ME] Unit 14: Foxcatcher 『フォックスキャッチャー』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 14の語彙を調べ、教員が指示した範囲の予習を行う。(学習時間：30分) [復習] 授業で学んだプレゼンテーションの仕方にならって、プレゼンテーションの原稿を作成する。 [ME]Unit 14の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取り組む。採点後に返却された解答を見て、再度復習する。(学習時間：30分)

10	金子 河野	[BWC] Unit 12: BLS (Basic Life Support) and ALS (Advanced Life Support) 一次救命処置と二次救命処置に関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 12の語彙を調べ、 教員が指示した範囲の予習を行う。(学習 時間: 30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見 直し、復習課題に取り組む。採点後に返却 された解答を見て、再度復習する。(学習 時間: 30分)
11	金子 河野	プレゼンテーションの最終アナウンス [ME] Unit 15: Interstellar 『インターステラー』	演習 GW ディスカッション	[予習] [ME] Unit 15の語彙を調べ、教 員が指示した範囲の予習を行う。(学習時 間: 30分) [復習] 授業で学んだプレゼンテーショ ンの仕方になって、プレゼンテーションの 原稿とスライドを作成する。[ME]Unit 15 の語彙や英語表現を見直し、復習課題に取 り組む。採点後に返却された解答を見て、 再度復習する。(学習時間: 1時間)
12	金子 河野	[BWC] Unit 13: Rehabilitation リハビリテーションに関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 13の語彙を調べ、 教員が指示した範囲の予習を行う。(学習 時間: 30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見 直し、復習課題に取り組む。採点後に返却 された解答を見て、再度復習する。(学習 時間: 30分)
13	金子 河野	[BWC] Unit 14: Diet and Nutrition 食事と栄養に関する英語を学ぶ	演習 GW ディスカッション	[予習] [BWC] Unit 14の語彙を調べ、 教員が指示した範囲の予習を行う。(学習 時間: 30分) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見 直し、復習課題に取り組む。採点後に返却 された解答を見て、再度復習する。(学習 時間: 30分)
14	金子 河野	医療系の記事・論文・ニューズレターのプレゼンテーション & ディス カッション	演習 GW ディスカッション	[予習] プレゼンテーションの準備を行 う。(発表原稿とPPTスライドの作成) (学習時間: 2時間) [復習] 他の学生からの意見等を振り返り ながら、もう一度自分が選んだ文献を読み 直す。(学習時間: 2時間)
15	金子 河野	試験	試験	[予習] 試験に向けてこれまでで学習し たKey ExpressionsやVocabularyを中心に 復習しておく。(学習時間: 1時間) [復習] 授業で学んだ語彙や英語表現を見 直し、採点後に返却された試験の解答を見 て、再度復習する。(学習時間: 30分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	小児看護学実習	必修・選択	必修
英語科目名	Practicum in Child Health Nursing	対象学年	3,4年
開講学期	複期	単位数	2単位
代表教員	平田 美佳	ナンバリング	PNL32C3
担当教員	平田 美佳※、森多毅※、鈴木由貴※、厚美彰子※ ※実務家担当教員	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	既習の知識と技術を統合して、あらゆる健康レベルにある子どもと家族に対し、子どもの権利を尊重した子どもと家族中心の看護を実践するための基礎的な能力を修得する。				
授業の位置づけ	「小児看護学概論」、「小児の健康障害と看護」、「小児看護方法論Ⅰ・Ⅱ」を通して、さまざまな健康状態にある子どもと家族に対する看護援助方法と看護技術を習得した。この既習の知識と技術を活用して、保育所・幼稚園・認定こども園において、地域で生活する子どもへの関わり方を学ぶ。また、病棟に入院している子どもを受け持ち、子どもの発達段階と健康状態に応じた看護を実践するための看護過程を展開する。子どもと家族への看護を提供するために、カルテやコミュニケーション・観察を通して必要な情報を意図的に収集してアセスメントし、子どもと家族の全体像をとらえ、必要とされる看護問題を見極め、子どもの健康回復に向けての看護計画を立案する。その看護計画に基づいて、受け持ちの子どもと家族に対して、教員と実習指導者からの指導の下に、看護を実践し評価する。実習全体を通して、子どもの権利を守るための生活・療養環境や子どもと家族中心の看護実践について学ぶ機会とする。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-CB、○DP2-III				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに関心を持ち、子どもの気持ちを尊重し、子どもおよび家族との関係を築くことができる。 2. 子どもの成長発達の特徴を説明できる。 3. 子どもの生活を理解し、成長発達を促進する援助について説明できる。 4. 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響について説明できる。 5. 入院している子どもと家族のアセスメントを行い、看護を実践する。 6. 子どもの安全について理解し、事故を防止できる。 7. チーム医療を学び、多職種との連携における看護職者の役割について説明できる。 8. 主体的に学習し、責任ある態度を培うことができる。 				
先修要件	小児看護方法論Ⅰ・Ⅱ				
関連科目	生涯発達論、看護学概論、小児看護学概論、小児の健康障害と看護、微生物学、薬理学、病理学、臨床医学Ⅰ・Ⅱ、形態機能学Ⅰ、臨床検査学、臨床栄養学				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の科目を統合して事前課題を遂行し、オリエンテーション時の技術演習を通して知識と技術を統合するための能力を養い、実習に臨む。 ・提示された注意事項を順守し、日々の健康管理を行い、あらゆる健康レベルにある子どもと家族を尊重し、実習施設の医療職者と職員の指導に対する感謝の念を忘れない。 <p>【事前準備】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期に多い感染症の抗体価を自分自身で確認し、保育所等の実習施設より指示されている検体検査を確実にし、万全な体調で実習に臨む。 2. 指定された事前課題は、実習で活用できる有効な資料となるよう効率的に学習する。 3. 効果的に実習に臨むために、オリエンテーションの内容は十分に理解する。 4. オリエンテーションで実践する技術演習は、事前学習を行い、オリエンテーション終了後に個別に練習する。 5. 実習記録は、大学の教員と臨地実習指導者の双方から指導を受ける。 6. 受け持ちの子どもについて発育評価と発達評価を確実にし、成長発達レベルに応じた看護実践をする。 				
成績評価の方法					
評価方法	実習内容と実習記録・レポートを基に到達目標の達成度85%、カンファレンスを含む実習態度15%を目安として総合的に評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに関心を持ち、子どもの気持ちを尊重し、子どもおよび家族との関係を築くことができる。 2. 子どもの成長発達の特徴を説明できる。 3. 子どもの生活を理解し、成長発達を促進する援助について説明できる。 4. 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響について説明できる。 5. 入院している子どもと家族のアセスメントを行い、看護を実践する。 6. 子どもの安全について理解し、事故を防止できる。 7. チーム医療を学び、多職種との連携における看護職者の役割について説明できる。 8. 主体的に学習し、責任ある態度を培うことができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
カンファレンスと個人面接でフィードバックする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
新体系 看護学全書	小児看護学①小児看護学概論 小児保健	小林京子、高橋孝雄編集	メヂカルフレンド社	978-4-8392-3359-4	第6版
新体系 看護学全書	小児看護学②健康障害をもつ小児の看護	小林京子、高橋孝雄編集	メヂカルフレンド社	987-4-8392-3460-0	第6版

参考文献				
1) 添田啓子、鈴木千衣、三宅玉恵、田村佳士枝編著、小児看護技術 第3版、2022 2) 及川郁子監、古橋知子・平田美佳責任編集、チームで支える！子どものプレバレーション、中山書店、2010 3) 白木和夫、高田哲編、ナースとコメディカルのための小児科学 改定第6版、へるす出版、2018				
その他				
連絡先・オフィスアワー		・随時（事前にメールで連絡のこと m.hirata.gg@）		
備考				
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1日目	実習配置表参照	保育所・幼稚園・認定こども園実習 〔キーワード〕 ・成長・発達 ・乳幼児の食事と排せつ ・発達段階に応じた遊び ・基本的生活習慣の自立 ・実習施設の健康管理と安全管理	実習	〔予習〕 ・実習要項、小児看護学概論、小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱの乳幼児に関するページを読む。（学習時間60分） 〔復習〕 ・1日関与した乳幼児の発達段階に応じたコミュニケーション、生活と遊びについての実践、保育士と幼稚園教員の援助方法を振り返り、学びを深めたことなどを記載して実習記録を完成させる。（学習時間80分）
1日目	実習配置表参照	小児病棟の特徴の理解 小児病棟で起こりやすい事故の特徴と事故防止対策 受け持ち患児とのコミュニケーション 〔キーワード〕 ・乳幼児期、学童思春期の特徴 ・小児期の病態と治療の特徴 ・小児病棟の構造 ・発達段階別に起こりやすい事故の特徴 ・入院中に起こりやすい事故の特徴 ・事故防止対策	実習	〔予習〕 ・実習要項、小児看護学概論、小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、小児の健康障害と看護のテキストと配付資料を読む。（学習時間80分） 〔復習〕 ・小児病棟の特徴を理解し、担当することもこの情報を把握して疾患や症状に対する看護を調べて実習記録を記述する。（学習時間80分）
2日目	実習配置表参照	受け持ち患児と家族のための情報収集 収集した情報の整理とアセスメント 担当することもへの生活援助の実践 〔キーワード〕 ・こどもと家族とのコミュニケーション ・必要と判断した情報の収集 ・アセスメントと関連図 ・生活援助 ・事故防止対策	実習	〔予習〕 ・担当することもこの病態を理解し、病態生理、症状、検査・診断と治療、予後、看護のポイントをまとめ、看護の方向性を明確にし、全体関連図を用いた発表の準備をする。（学習時間80分） 〔復習〕 ・担当することもこの病態を踏まえ、必要な情報を収集してアセスメントし、全体関連図を完成させる。（学習時間80分）
3日目	実習配置表参照	担当することもと家族の看護問題の見極め、看護計画の立案と看護実践 小児外来実習 〔キーワード〕 ・アセスメント：情報の分析、解釈、統合 ・看護計画立案 ・看護実践の評価 ・外来実習（4-9日目）	実習	〔予習〕 ・日々の実習記録を完成させ、担当することもに必要な看護技術を学習し、実践できるように準備する。 ・情報をアセスメントし、担当することもと家族の看護問題を見極めて看護計画を立案する。（学習時間90分） 〔復習〕 ・1日を振り返り、提供した看護実践を評価し、看護問題リストと看護計画を完成させる。（学習時間90分）
4日目	実習配置表参照	看護計画立案と看護実践 1週目の到達目標の到達度と2週目の課題の明確化 〔キーワード〕 ・看護計画立案 ・看護計画に基づいた看護実践 ・計画の評価と加筆修正 ・新たな情報収集	実習	〔予習〕 ・日々の実習記録を完成させ、担当することもに必要な看護技術を学習し、実践できるように準備する。 ・看護実践のための看護計画を完成させる。（学習時間80分） 〔復習〕 ・看護計画を実践して評価し、計画の加筆修正により看護計画を完成させる。 ・担当することもの変更がある場合は、情報収集してアセスメント、看護問題リスト、看護計画を立案する。（学習時間100分）

5日目	実習配置表参照	2週目の課題に応じた情報収集、アセスメント、看護計画立案、計画の実践と評価、加筆修正 〔キーワード〕 ・看護計画に基づいた看護実践 ・新たな情報収集、アセスメント、計画立案 ・看護計画と看護実践の評価	実習	〔予習〕 ・1週目で実践した看護過程を見直し、看護計画の発表の準備をする。 ・2週目の課題に応じた学習をする。 ・見学実習に関する実習目標と実習内容、事前学習課題を熟読する。(学習時間90分) 〔復習〕 ・自己の課題に応じた実習記録を作成する。 ・担当することもに必要な看護技術の中で未習得の技術について調べて実践できるように計画する。(学習時間90分)
6-7日目	実習配置表参照	2週目の到達目標と実習記録の完成、今後の課題の明確化 NICU・新生児治療室見学実習、手術見学など 〔キーワード〕 ・看護計画に基づいた看護実践 ・見学実習 ・NICU・新生児治療室看護 ・到達目標の到達度評価	実習	〔予習〕 ・2週目の課題に応じた学習をする。 ・見学実習に関する実習目標と実習内容、事前学習課題を熟読する。(学習時間80分) 〔復習〕 ・自己の課題に応じた実習記録を完成させる。 ・担当することもに関する申し送り事項を明確にして記録する。(学習時間80分)
8-9日目	実習配置表参照	2週目の到達目標と実習記録の完成、今後の課題の明確化 NICU・新生児治療室見学実習、手術見学など 〔キーワード〕 ・看護計画に基づいた看護実践 ・見学実習 ・NICU・新生児治療室看護 ・到達目標の到達度評価	実習	〔予習〕 ・2週目の課題に応じた学習をする。 ・見学実習に関する実習目標と実習内容、事前学習課題を熟読する。(学習時間80分) 〔復習〕 ・自己の課題に応じた実習記録を完成させる。 ・担当することもに関する申し送り事項を明確にして記録する。(学習時間80分)
10日目	実習配置表参照	2週間の実習のまとめ 実習記録の完成と提出	実習	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	成人看護学実習Ⅰ	必修・選択	必修
英語科目名	Practicum in Adult Nursing I	対象学年	3,4年
開講学期	複期	単位数	3単位
代表教員	池田 恵	ナンバリング	PNL32B2
担当教員	池田 恵※、佐藤まゆみ※、高山京子※、田中朋子※、宮津珠恵※、阿久澤優佳※、坂本亜弓※、瀬尾昌枝※、北村幸恵※ ※・・・実務家担当教員	授業形態	実習

※・・・実務家担当教員

授業概要					
全体内容	手術に伴いセルフケアが制限される成人患者およびその家族への看護実践に必要な知識・技術・態度を習得する。				
授業の位置づけ	成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅳの学修内容を基盤とし、病院実習を通して手術を受ける成人患者およびその家族への看護実践に必要な知識・技術・態度について習得する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-Ⅱエビデンスに基づいた看護を適切に実践できる能力 ○DP2-Ⅲ健康レベルに応じた看護を展開する能力 ○DP3-Ⅰ保健医療福祉における多職種と協働・連携する能力				
到達目標	1) 周手術期にある患者と家族の身体的・心理的・社会的状態及びセルフケア能力を説明できる。 2) 周手術期にある患者と家族の問題解決に向けた援助を、対象者の個性やセルフケア能力を踏まえながら計画し、実施・評価することができる。 3) 周手術期にある患者と家族に対し専門職者としての態度・姿勢で看護実践を行うことができる。 4) 周手術期医療チームにおける看護師の役割を説明できる。				
先修要件	成人看護学方法論Ⅳ（がん看護論）				
関連科目	生涯発達論、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、形態機能学ⅠA・ⅠB、生化学、微生物学、臨床栄養学、薬理学、病理学、臨床検査学、臨床医学ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB				
学修上の注意	<p>【準備学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習開始までに予習欄にある課題に必ず取り組むこと。 ・課題はメモやノート等にまとめ、実習場で使用できるようにしておくこと。 <p>【実習中の注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者は自立した成人であることを念頭に誠実な態度で実習すること。 ・実習場は患者の療養の場であるため、医療チームメンバーとしてふさわしい態度で実習すること。 ・チームメンバーの一員として報告、連絡、相談を実施すること。 ・実習期間が長いために体調管理に留意すること。 ・体調が悪く、特に感染が疑われる症状がある場合は、病棟に行く前に必ず教員に連絡すること。 				
成績評価の方法					
評価方法	日々の学習状況10%、実習目標への到達度90%。評価は担当教員と臨床指導者の合議により決定する。				
評価基準	1) 周手術期にある患者と家族の身体的・心理的・社会的状態及びセルフケア能力を説明できたか。 2) 周手術期にある患者と家族の問題解決に向けた援助を、対象者の個性やセルフケア能力を踏まえながら計画し、実施・評価することができたか。 3) 周手術期にある患者と家族に対し専門職者としての態度・姿勢で看護実践を行うことができたか。 4) 周手術期医療チームにおける看護師の役割を説明できたか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題等に対するフィードバックの希望者には随時メールで受け付ける。 実習記録は、提出されたものを指導教員がコメントして返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
関連授業科目の授業資料や文献、その他は実習中に適宜紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	実習全体については、科目責任者の池田（meg-i@）にメールで連絡する。 実習期間中は各実習担当教員に連絡すること。連絡先は実習開始前のオリエンテーションで提示する。				
備考	実習中に適宜提示・配布する。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1-15	池田 佐藤 高山 田中 宮津 坂本 阿久澤 瀬尾 北村	<p>1. 実習施設 ①順天堂医院 ②順天堂大学浦安病院</p> <p>2. 実習内容 1)実習1日目 実習施設でオリエンテーション等</p> <p>2)実習2日目 病棟指導者の協力を得て、大学内で技術演習を行う。</p> <p>3)実習3～13日目 ・実習施設の外科系病棟で手術をうける患者を1～3名受け持ち、看護を実践する。 ・患者の受け持ちは、術後から退院まで、術前のみなど、周手術期のある期間を担当することもあり、統合して周手術期看護を実践する。 ・手術室で同行実習を行い、患者がうける手術侵襲について理解するとともに、危機的状況にある患者を支える手術室看護の実際を理解する。 ・集中治療室（ICU・救命センターICU）で同行実習を行い、集中治療をうける術後患者の看護の実際を理解する。</p> <p>4)実習14～15日目 大学内でカンファレンス、個別面接（実習評価）を行う。</p> <p><受け持つ患者が受ける主な手術> 開腹術、開胸開腹術、開胸術、開心術、開頭術、人工関節置換術、関節鏡手術、乳腺手術、脊椎手術、腹腔鏡手術、胸腔鏡手術、膀胱鏡手術</p>	臨地実習・学内演習	<p>[予習] 実習オリエンテーション前 1) テキストや資料を見直し復習する 2) 3年生7月のオリエンテーション時に提示した「事前課題」について取り組む 3) 周手術期看護に必要な援助技術について、e-learning「ナースングスキル」で確認する (学習時間:120分)</p> <p>実習開始後 1) 受け持ち患者の看護実践を行う上で必要な学習を行い実習に臨む 2) 同行実習を行う上で必要な学習を行い実習に臨む。 3) カンファレンスや個人面接に必要な準備を行い実習に臨む。 (学習時間:90分)</p> <p>[復習] 1) 実習記録を作成し自己の実習内容を振り返る 2) 不足していた知識・技術について関連するテキストや資料で学習する。 3) 看護実践を評価し、翌日の看護援助計画を立案する (学習時間:90分)</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	成人看護学実習II	必修・選択	必修
英語科目名	Practicum in Adult Nursing II	対象学年	3,4年
開講学期	複期	単位数	3単位
代表教員	高谷 真由美	ナンバリング	PNL32B3
担当教員	佐藤まゆみ※, 高谷真由美※, 長瀬雅子※, 樋野恵子※, 坂本亜弓※, 瀬尾昌枝※, 北村幸恵※, 宮津珠恵※, 阿久澤優佳※ ※・・・実務家担当教員	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	慢性疾患をもち、生涯にわたりセルフケアが重要となる成人患者および家族への看護実践に必要な知識・技術・態度を修得する。				
授業の位置づけ	成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ～Ⅳで学修したことを中心に、患者・家族への看護実践を通して知識・技術を再確認しながら学修を深め、実践力を身に付ける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-Ⅲ ○DP2-Ⅰ ○DP2-Ⅱ ○DP3-Ⅰ				
到達目標	1) 患者の発達段階や身体的・心理的・社会的状態及びセルフケア能力を説明できる。 2) 患者が患者自身の持てる力を発揮できるように援助できる。 3) 症状コントロールに必要な援助を実施できる。 4) 生活習慣の改善・変更に伴う生活行動の維持・再構築への援助を実施できる。 5) 疾病をもつ患者・家族の心理的安寧がはかれるような援助を実施できる。 6) 医療チームにおける看護師の役割を説明できる。				
先修要件	成人看護方法論Ⅳ（がん看護論）				
関連科目	生涯発達論、成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ、形態機能学ⅠA・ⅠB、生化学、微生物学、臨床栄養学、薬理学、病理学、臨床検査学、臨床医学ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB				
学修上の注意	【準備学習】 ・実習に必要な既習科目の復習をしておくこと。特に、対象者の疾患から起こり得る機能障害、対象者の疾患に対して行われる治療、予測される看護問題、原則的な看護ケア方法を学習しておくこと。 【実習中の注意事項】 ・対象者は自立した成人であることを念頭に誠実な態度で実習すること。 ・実習場は患者の療養の場であるため、医療チームメンバーとしてふさわしい態度で実習すること。 ・チームメンバーの一員として報告、連絡、相談を実施すること。 ・実習期間が長いため、体調管理に留意すること。 ・体調が悪く、特に感染が疑われる症状がある場合は、病棟に行く前に必ず教員に連絡すること。				
成績評価の方法					
評価方法	日々の学習状況10%、実習目標への到達度90%。評価は担当教員と臨床指導者の合議により決定する。				
評価基準	1) 患者の発達段階や身体的・心理的・社会的状態及びセルフケア能力を説明できたか。 2) 患者が患者自身の持てる力を発揮できるように援助できたか。 3) 症状コントロールに必要な援助を実施できたか。 4) 生活習慣の改善・変更に伴う生活行動の維持・再構築への援助を実施できたか。 5) 疾病をもつ患者・家族の心理的安寧がはかれるような援助を実施できたか。 6) 医療チームにおける看護師の役割を説明できたか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
事前課題は、実習1週目に担当教員がコメントし返却する。 実習中に作成する記録類は、原則として提出日の翌日にコメントして返却する。 最終提出されたレポート類は、担当教員・実習指導者がコメントし、適宜返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
関連授業科目の授業資料や文献、その他は実習中に適宜紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	実習全体に関することは科目責任者（高谷 mtakaya@）にメールで連絡する。 実習期間中は各担当教員に直接連絡する。				
備考	実習中に適宜提示・配布する。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1~1 5回	高谷 長瀬 樋野 坂本 北村 瀬尾 宮津 阿久澤 佐藤	<p>【3週間の実習の流れ】</p> <p>1. 病棟実習</p> <p>1) 初日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習病棟等病院内実習関連部署のオリエンテーション ・担当患者の決定と情報収集 <p>2) 2日目以降</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として内科病棟で患者を受け持ち、看護援助を実践する。 ・第1週後半から病棟実習終了までの期間に、看護師同行実習1日、外来実習（透析室・外来化学療法室・検査室）半日を行う。スケジュールは学生によって個別に決定する。 <p>2. 学内実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3週後半に学内で実習のまとめを行う。 <p>【実習施設】</p> <p>①順天堂医院 ②順天堂大学浦安病院</p> <p><受け持つ患者の主な疾患></p> <p>慢性腎臓病、慢性呼吸不全、肺がん、肝炎、肝細胞がん、慢性心不全、虚血性心疾患、自己免疫性疾患、血液疾患、胃がん、大腸がん、膵臓がん、胆管がん、脳梗塞、脳血管疾患、脳神経系疾患、糖尿病、白内障など。</p>	臨地実習・学内演習	<p>[予習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の援助に必要な、病態・検査・治療・看護援助技術・理論について、教科書や参考書、授業での配布資料などで学習しておく。必要な援助技術は、e-learningの「ナーシング・スキル」で確認しておく。 ・事前課題は実習直前のオリエンテーション時に提示する。 <p>(学習時間: 2時間)</p> <p>[復習]</p> <p>その日の実習で不十分だった知識や新たに経験したことなどを中心に資料などを確認する。</p> <p>(学習時間: 2時間)</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	高齢者看護学実習	必修・選択	必修
英語科目名	Practicum in Gerontological Nursing	対象学年	3,4年
開講学期	複期	単位数	3単位
代表教員	湯浅 美千代	ナンバリング	PNL32A1
担当教員	湯浅 美千代※、島田 広美※、杉山 智子※、川上 和美※、横山 久美※、河西 恵美※、王 迪※、八木 範子※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	治療を必要とする高齢者への看護過程の展開を通して、高齢者への看護実践に必要な知識、技術、態度を修得する。				
授業の位置づけ	「高齢者看護学概論」「高齢者看護方法論Ⅰ・Ⅱ」および「高齢者ケアシステム実習」の学習内容、ならびに既習知識を活用して、教員ならびに病棟の実習指導者の支援を受けながら治療を必要とする高齢者への看護過程を展開する。その過程を記録し、振り返ることで看護実践能力の修得を目指す。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-Ⅲ、○DP1-Ⅳ、○DP2-Ⅰ、○DP2-Ⅱ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老化や疾病に伴う健康上の問題をもつ高齢者の看護実践のために個性をふまえたアセスメントができる。 2. 高齢者に対して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. コミュニケーションを活用して高齢者・家族との信頼関係を構築できる。 4. 高齢者・家族に対して倫理観を持った姿勢で関わるができる。 5. 多職種で連携するチームの一員としての役割を意識した行動をとることができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	生涯発達論 高齢者看護学概論 高齢者看護方法論Ⅰ・Ⅱ 看護学概論 基礎看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ フィジカルアセスメント 看護理論・看護過程 成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 形態機能学ⅠAB 病理学 症状別臨床病態学 臨床医学ⅠAB・ⅡAB 薬理学 微生物学 臨床栄養学 臨床検査学				
学修上の注意	<p>実習前に関連授業科目を復習し、積極的に実習を行ってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習に必要な知識を整理し、活用するために、事前課題を課すので十分学習を深めて実習に臨むこと。 ・実習のスケジュール、経験すべき看護技術、記録の書き方、成績評価基準・配分等を高齢者看護学実習要項に示している。参照して実習準備を行うこと。 ・予習・復習に要する時間は各自の技術・知識の修得状況ならびに受け持ち患者の疾患や状況によって異なる。実習前には自身の修得状況を自覚して事前学習を行っておくこと。実習後は不足を感じた知識・技術を復習すること。 ・実習では、オリエンテーション等で示される注意事項を守る。特に、学生自身の健康を管理し、毎朝健康チェックを行うこと。 ・実習後の記録により1日の振り返りと翌日の実習に対する準備を行う。 <p>* 感染症流行の状況等によって、方法やスケジュール等を変更する可能性があります。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<p>出席日数、実習内容、実習態度、実習記録を総合し、目標到達度を高齢者看護学実習要項に示す評価表の配分（下記）にそって評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老化や疾病に伴う健康上の問題をもつ高齢者の看護実践のために個性をふまえたアセスメントができる。（20%） 2. 高齢者に対して根拠に基づいた看護を実践できる。（30%） 3. コミュニケーションを活用して高齢者および家族との信頼関係を構築できる。（20%） 4. 高齢者・家族に対して倫理観を持った姿勢で関わるができる。（20%） 5. 多職種で連携するチームの一員としての役割を意識した行動をとることができる。（10%） <p>評価は担当教員ならびに臨床の実習指導者により行う。</p>				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老化や疾病に伴う健康上の問題をもつ高齢者の看護実践のために個性をふまえたアセスメントができたか。 2. 高齢者に対して根拠に基づいた看護を実践できたか。 3. コミュニケーションを活用して高齢者（および家族）との信頼関係を構築できたか。 4. 高齢者・家族に対して倫理観を持った姿勢で関わるできたか。 5. 多職種で連携するチームの一員としての役割を意識した行動をとることができたか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・最終日の面接において、学生による自己評価をもとに実習全体を振り返る。 ・実習記録は、臨床実習指導者および担当教員が確認の上、コメントを入れて返却する。 ・課題等に対するフィードバックの希望者には随時メールで受け付ける。 					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
実習に関連する授業科目のテキスト、参考文献を活用すること。資料は実習中に適宜紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	・質問等があれば、科目責任者または担当教員に連絡してください。 科目責任者（湯浅）：myuasa@				
備考	なし				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
	湯浅 美千代 島田 広美 杉山 智子 川上 和美 横山 久美 河西 恵美 王 迪 八木 範子	実習オリエンテーションと事前課題提示	説明	予習：（学習時間概ね2時間） 事前課題：実習で行う技術ならびに必要な知識の復習 1. 高齢者看護において多く活用する技術について配付資料にまとめる。 2. 高齢者看護学概論、高齢者看護方法論において学んだ内容について、テキストや配付資料を見直す。 3. 看護技術について自己学習、技術練習を行う。 復習：（学習時間90分） オリエンテーション内容を整理し、高齢者観を再考する。不足している知識・技術を復習する。
	湯浅 美千代 島田 広美 杉山 智子 川上 和美 横山 久美 河西 恵美 王 迪 八木 範子	学内での実習（病棟での実習前） 病棟での実習に必要な知識・技術について演習する。 病棟での実習 1) 学生を各実習施設 1 病棟あたり2~6名配置する。 2) 病棟の指導担当者からオリエンテーションを受ける。 3) 患者を受け持ち、看護に必用な患者情報を収集して患者の状態を把握し、看護過程を展開する。 4) 日々の実習記録により自己の看護を振り返る。 5) 前日の実習での学びや気づきに基づき、翌日の看護援助計画を立案する。 6) 必要時、実習グループでのカンファレンスを行う。 7) 病棟での実習最終日に、病棟ごとで実習を総括する報告会を行う。 中間カンファレンス 病棟内でカンファレンスをもち、実習指導者ならびにスタッフから看護計画に対する助言を受ける。 実習グループで看護過程の検討や技術の復習を行う。 学内での実習 * 時期、期間、学生の状況等により、以下から選択して実施する。 病棟実習に向けて、配置病棟に特徴的な疾患、治療、看護について学習する。 看護過程の基礎知識の復習、高齢患者に対する看護技術の実技演習を行う。 受け持ち患者の看護（看護過程）について振り返りを行う。 高齢患者の看護に関する演習（ロールプレイ）を行う。 高齢者のもつ可能性、エンパワメントについてグループディスカッションを行う。 急性期治療の場における倫理的課題についてグループディスカッションを行う。 認知症や障害をもつ高齢者に関するアセスメントについて学習する。 総括 1) 評価表をもとに、実習の自己評価を行い、教員と確認する。 2) 基本看護技術リストを記入し、担当教員が確認する。 3) 教員と面接をもち、看護過程の評価、実習全体の振り返りを行う。	実習	予習：（学習時間概ね2時間） 1. 高齢者看護方法論で学習した看護過程を見直す。 2. 受け持ち患者の疾患と主な治療法、看護（または実習する病棟で多い疾患と主な治療法、その看護）について調べる。 準備： 学生自身の体調管理を行う。 ユニフォームや新しいメモ帳等の必要物品を準備する。 参考資料を集める。 復習：（学習時間：毎日概ね2時間） 1. 不足していた看護技術、実施しなかった看護技術について自己学習、技術練習を行う。 2. 不足していた知識（特に解剖生理、病態、治療）について関連するテキストを読み、まとめる。 3. 提出する記録物を整理する。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	母性看護学実習	必修・選択	必修
英語科目名	Practicum in Maternal-Newborn Nursing	対象学年	3,4年
開講学期	複期	単位数	2単位
代表教員	森田 亜希子	ナンバリング	PNL33A1
担当教員	大月 恵理子※、青柳 優子※、森田 亜希子※、飯田真理子※、高島 えり子※、植竹 貴子※、梶川 未菜※、五十嵐美咲※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	周産期を中心とした母性看護の対象を理解し、母性看護実習における知識・技術を学ぶ。				
授業の位置づけ	「母性看護学概論」および「周産期の看護」で学修した内容に基づいて、周産期を中心とした母性看護の対象への看護を学ぶ実習と位置づける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	○DP2-I、○DP2-II、◎DP2-III、○DP3-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期にある対象を身体的、心理的、社会的側面から総合的に理解することができる。 2. 褥婦、新生児及びその家族の健康課題を抽出し、看護計画を立案することができる。 3. 妊婦、産婦、褥婦、新生児に必要な看護を実施し、評価することができる。 4. 妊婦、褥婦に対する保健指導の意義・方法を説明することができる。 5. 母性看護における継続看護の必要性を説明することができる。 6. 周産期を通して家族の発達を考察することができる。 7. 女性のライフサイクルにおける母性看護の役割を説明することができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	母性看護学概論、周産期の看護				
学修上の注意	<p>準備</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「母性看護学概論」「周産期の看護」の授業内容を復習しておくこと。 2. 実習オリエンテーション時に提示した課題を学習しておくこと。 <p>実習中</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本実習目的・目標を理解して主体的に実習に臨むこと。 2. 学内での所定の演習課題を達成してから実習施設での実習に臨むこと。 3. 所定の実習記録用紙を用いて、看護診断、看護計画を立案し、実施した内容を評価すること。 4. 日々の実習目標と行動計画を立案して、実習内容を評価し、翌日の学習課題を明確にすること。 5. 実習で経験したことをグループカンファレンスで共有し、学習を深めること。 				
成績評価の方法					
評価方法	実習態度（10%）、実習内容および実習記録をもとに実習目標の達成度（90%）を総合して評価				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母子（褥婦と新生児）を受け持ち、看護過程を展開できる。 2. 周産期にある対象を理解し、必要な看護を実施できる。 3. 妊婦、褥婦に対する保健指導の意義・方法を説明することができる。 4. 母性看護について考察することができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題等に対するフィードバックの希望者には随時対応する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
必要時紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと）				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
実習1 日目	大月 青柳 森田 飯田 高島 植竹 梶川 五十嵐	実習オリエンテーション 実習に必要な知識の確認、演習、実技評価 [キーワード] 看護過程、ウェルネス型看護診断、母性看護技術、保健指導	学内実習	予習：「周産期の看護」の授業資料およびテキストを復習しておくこと。 「周産期の看護」で学習した看護過程を確認しておくこと。 「周産期の看護」で学習した技術演習の授業内容を確認し、自己学習・技術練習をしておくこと。 (学習時間：90分) 復習：実習で学習した看護過程、看護技術を整理すること。 (学習時間：60分)
実習2 ～9日 目	大月 青柳 森田 飯田 高島 植竹 梶川 五十嵐	1. 1組の母子を受け持ち、看護診断及び看護計画立案・実践・評価を行う。 2. 周産期の看護を実施又は見学する。 3. 妊婦・褥婦及び育児期の母子への個別指導・集団指導を見学又は実施する。 4. グループカンファレンス（ケースカンファレンスを含む）を行う。	臨地実習	
実習10 日目	大月 青柳 森田 飯田 高島 植竹 梶川 五十嵐	グループごとのまとめ	学内実習	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	助産診断技術学II（妊娠・分娩期の助産技術）	必修・選択	選択
英語科目名	Midwifery practice II	対象学年	4年
開講学期	前期	単位数	1単位
代表教員	飯田 真理子	ナンバリング	ANL33B1
担当教員	飯田真理子※、青柳優子※、森田亜希子※、植竹貴子※、五十嵐美咲※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	妊娠期の助産ケアの実践能力を養うために、妊婦健康診査、妊婦に対する個別の保健指導、妊婦とその家族に対する集団指導の実践について学修する。さらに分娩期の助産ケアの基本となる技術について学修する。			
授業の位置づけ	妊娠期・分娩期の助産ケアについて理解し、助産過程実践の基礎的能力を養うための基礎となる授業と位置づける。また、助産診断技術学Ⅲ、助産診断技術学Ⅳ、助産診断技術学Ⅴに繋がるための基盤となる授業と位置づける。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-II、ODP2-I、ODP2-III、ODP3-I			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を通して妊婦への個別の保健指導ができる。 2. 妊婦とその家族の集団を対象とした模擬健康教育を実施し評価できる。 3. 妊婦の状況に応じた健康診査が、シミュレーターを用いて実施できる。 4. 分娩期の母子のフィジカルアセスメントの方法を説明できる。 5. 分娩助産技術の基本を説明できる。 			
先修要件	なし			
関連科目	周産期の看護、ウィメンズヘルスナーシング、助産診断技術学総論、助産診断技術学Ⅰ、助産診断技術学Ⅲ、助産診断技術学Ⅳ、助産診断技術学Ⅴ			
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師国家試験受験資格取得希望者には必須科目である。 2. 助産実践能力の修得のために、自主的な課題への取り組みを求める。 3. 妊婦健康診査場面を想定したOSCE（客観的臨床能力試験）を授業内に行う。 			
成績評価の方法				
評価方法	定期試験（30%）、妊婦OSCE（客観的臨床能力試験）（20%）、学修課題（個別指導・集団指導を含む）への取り組み（50%）			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦とその家族への健康教育を実施できる。 2. 妊婦の健康診査が事例に応じて実施できる。 3. 分娩期のフィジカルアセスメントを実施できる。 4. 分娩助産技術の基本を説明することができる。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
個別保健指導、集団保健指導、妊婦健康診査場面を想定したOSCE実施後は、授業内外でのフィードバックを行う。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
助産学講座 6 [1] 妊娠期 第6版 助産診断・技術学Ⅱ	我部山キヨ子、武谷雄二	医学書院	978-4-260-04208-6	
助産学講座 7 [2] 分娩期・産褥期 第6版 助産診断・技術学Ⅱ	我部山キヨ子、藤井知行	医学書院	978-4-260-04210-9	
参考文献				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の助産 改訂第4版北山真理子編、南山堂、2019. 2. 臨床助産テキスト 第1巻 妊娠、竹田 省（監修）、福井 トシ子（編集）、メディカ出版、2016. 3. 産婦人科診療ガイドライン産科編2020・日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会編集/監修・2020 4. 助産師のためのフィジカルイグザミネーション、第2版、我部山キヨ子・大石時子編、医学書院、2018. 6. 助産師基礎教育テキスト 第4巻（2023年版）妊娠期の診断とケア、日本看護協会出版会、2023. 7. 助産師基礎教育テキスト 第5巻（2023年版）分娩期の診断とケア、日本看護協会出版会、2023. 8. 第3版 プリンシプル産科婦人科学 1（婦人科編）・武谷雄二監・メディカルビュー・2014 9. 第3版 プリンシプル産科婦人科学 2（産科編）・武谷雄二監・メディカルビュー・2014 10. 竹田省 高橋真理、CG動画でわかる！分娩の仕組みと助産法、メジカルビュー、2016 				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと）			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1 2	森田亜希子 飯田真理子 五十嵐美咲	1. 妊娠期の集団指導 1) 出産に向けての準備教育 2) 親になる準備教育	講義 GW	予習：助産診断技術学総論で触れた健康教育の内容を復習して臨む。(学習時間各回60分) 復習：妊婦とその家族を対象にした健康教育の実際計画立案できるように基礎知識を整理しておく。(学習時間各回60分)
3 4	植竹 貴子 五十嵐 美咲	2. 妊娠期の保健指導 (個別指導)	演習	予習：これまで学習した妊娠期に関わる知識、アセスメントとケアのポイントを整理しておく。事例を使って、ニーズに合う保健指導に向けて準備をする。(学習時間各回60分) 復習：各自で行った保健指導を自己評価、修正する。(学習時間各回60分)
5 6 7	青柳 優子 飯田 真理子 森田 亜希子 植竹 貴子 五十嵐 美咲	3. 妊婦健康診査OSCE (客観的臨床能力試験)	演習	予習：これまでの授業で学修した助産診断、助産過程、保健指導、フィジカルアセスメントを復習し、試験に臨むこと。(学習時間各回60分) 復習：妊婦健康診査一連の実施について振り返り、評価すると共に自己の課題を明確にする。(学習時間各回60分)
8 9	飯田 真理子 青柳 優子 森田 亜希子 五十嵐 美咲	4. 集団指導の実際 (模擬両親学級)	演習	予習：グループごとに企画した妊婦とその家族を対象とした健康教育の指導計画の推敲及び教材・環境等の準備を行う。健康教育のリハーサルを実施する。(学習時間各回60分) 復習：取り組んだ模擬集団指導の評価や学びを整理する。(学習時間各回60分)
10 11	飯田 真理子 五十嵐 美咲	5. 産婦のフィジカルアセスメント	講義 演習	予習：妊娠期のフィジカルアセスメントを復習する。助産学講座7 [2] 分娩期・産褥期 第2章「分娩期のフィジカルアセスメント」を読んで授業に臨む。(学習時間各回60分) 復習：授業内容、テキストを確認しておく。臨地実習での実践に向け、各自モデル教材を用いて練習しておく。(学習時間各回60分)
12 13	飯田 真理子 五十嵐 美咲	6. 産婦への支援 1) 産痛緩和 2) リラクゼーション 3) 基本的ニーズ	講義 演習	予習：助産学講座7 [2] 分娩期・産褥期 第4章「産婦への支援」を読んで授業に臨む。(学習時間：各回60分) 復習：授業内容、テキストを確認しておく。臨地実習での実践に向け、メンバーと協力して練習しておく。(学習時間各回60分)
14 15	青柳 優子	7. 分娩介助の原理と方法	講義 演習	予習：分娩のメカニズムと関連する因子について復習する。テキスト及び参考書を活用して、基本的な分娩介助法とその根拠をノートに整理する。(学習時間各回60分) 復習：授業内容、テキストを確認し、分娩介助法を再確認し、ノートの追加修正をする。分娩介助実施に向け流れを理解する。(学習時間各回60分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	助産診断技術学III（分娩介助技術）	必修・選択	選択
英語科目名	Midwifery practice III	対象学年	4年
開講学期	前期	単位数	1単位
代表教員	青柳 優子	ナンバリング	ANL33B2
担当教員	青柳優子※、森田亜希子※、飯田真理子※、植竹貴子※、五十嵐美咲※、青木まり子※、角倉弘行※ ※・・・実務家担当教員	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	分娩介助の意義・原理を理解し、基本的な分娩介助技術を修得する。 フリースタイル分娩、産科救急、無痛分娩における助産援助を理解する。				
授業の位置づけ	看護の理論と方法「ウイメンズヘルスと看護」の枠組みに含まれる。 「助産診断技術学」の一連の科目と同様に、助産実践の基礎を学び助産学実習での実践に繋がる内容である。 助産師国家試験受験資格取得希望者は必須科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【該当するコンピテンシー】 本科目を学習することで、以下の能力の基礎が身につきます。 ◎DP2-II、○DP2-I、○DP2-III、○DP3-I				
到達目標	1) 産婦の状況に応じた基本的分娩介助技術を、シミュレーターを用いて実施できる。 2) フリースタイル分娩の意義、方法を説明することができる。 3) 分娩における緊急時の対応方法について説明することができる。 4) 無痛分娩の方法と特徴、対応方法を説明することができる。				
先修要件	なし				
関連科目	「助産学概論」「母性の心理社会学」「助産診断技術学総論」「助産診断技術学Ⅰ」「助産診断技術学Ⅱ」「助産学実習」「周産期の看護」「母性看護学実習」				
学修上の注意	1. 助産選抜試験合格者のみ履修可能である。 2. 根拠に基づく実践方法を理解し修得するには、既習知識を活用できるように準備して臨む必要がある。 3. 技術修得には反復練習が必要である。授業時間外の時間も自主的に活用し、有効な演習とすることで学修目標を達成してほしい。				
成績評価の方法					
評価方法	成績評価方法 分娩介助実技試験（60%）、OSCEへの取組み（20%）、授業への取組み（20%）を総合して評価する。				
評価基準	到達目標1～4の達成レベルで評価する。 1. 産婦の状況に応じた基本的分娩介助技術を、シミュレーターを用いて実施できる。 2. フリースタイル分娩の意義、方法を説明することができる。 3. 分娩における緊急時の対応方法について説明することができる。 4. 無痛分娩の方法と特徴、対応方法を説明することができる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
実技試験、OSCEのフィードバックは個別面接により実施する。 その他、適宜個別指導を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期	我部山キヨ子・藤井知行 編	医学書院	978-4-260-04210-9	第6版
参考文献					
助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア. 町浦美智子編. 日本看護協会出版会. 2021 助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア. 遠藤俊子編. 日本看護協会出版会. 2021 産婦人科診療ガイドライン産科編2023. 日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会編集/監修. 2023 第3版 プリンシプル産科婦人科学2（産科編）. 武谷雄二監. メジカルビュー. 2014 胎児心拍数モニタリング講座. 藤森敬也. メディカ出版. 2011 今日の助産 第4版. 北川真理子、内山和美編. 南江堂. 2019 CG動画でわかる！分娩のしくみと介助法. 竹田省、高橋眞理. メジカルビュー. 2016					
その他					
連絡先・オフィスアワー	・随時（事前にメールで連絡のこと yaoyagi@）				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1~3	青柳 優子 飯田 真理子 五十嵐 美咲	分娩介助技術の実際	演習	予習：基本的な分娩介助法の流れ、使用物品、方法について理解する。 ポディメカニクス、清潔操作の基本について整理しておく。 (学習時間90分) 復習：授業内容・テキストを確認し、各自の分娩介助手順ノートに追加・修正する。 基本的な分娩介助法がスムーズに実施できるよう練習に取り組む。 (学習時間3時間)
4	森田 亜希子	フリースタイル分娩の介助法	演習	予習：指示された課題に取り組む (学習時間70分) 復習：授業内容について確認し、フリースタイル分娩の特徴、利点・欠点について理解する。 (学習時間70分)
5~8	飯田 真理子 青柳 優子 植竹 貴子 五十嵐 美咲	状況に応じた分娩介助技術	演習	予習：事例設定を行い、産婦の状況に応じた分娩介助法の要点をまとめる。 初産婦経産婦の違い、分娩室入室の判断と対応、いきみ方を調べる。 (学習時間各90分) 復習：授業内容、テキストを確認し、各自の分娩介助ノートに追加・修正する。 産婦の状況に対応した分娩介助技術が実施できるよう、学生同士でシミュレーション教材を用いて練習を重ねる。 (学習時間3時間以上)
9~10	青木 まり子	産科救急時の対応	講義 シミュレーション 演習	予習：産科異常出血の原因、対処方法について調べる。 (学習時間70分) 復習：授業内容、テキストを読み産科異常出血の病態と判断およびチームでの対応のあり方について確認しておく。 (学習時間70分)
11~12	角倉 弘行 植竹 貴子	無痛分娩の現状と対応 無痛分娩における助産師の役割	講義	予習：麻酔分娩の種類と方法、合併症について調べる。 提示された課題に取り組む。 (学習時間各70分) 復習：授業内容を確認し、安全な麻酔分娩の方法と異常時の対応について整理する。 (学習時間各70分)
13~14	青柳 優子 飯田 真理子 五十嵐 美咲	状況に応じた分娩介助技術Ⅱ	総合的な演習	予習：各自が事例設定を行い、産婦の状況に応じた分娩介助法の要点をまとめる。 人工破膜、臍帯巻絡、胎児徐脈、産婦への声かけを調べる。 (学習時間各70分) 復習：授業内容、テキストを確認し、各自の分娩介助ノートに追加・修正する。 産婦の状況に対応した分娩介助技術が実施できるよう、学生同士でシミュレーション教材を用いて練習を重ねる。 (学習時間3時間以上)
試験	青柳 優子 飯田 真理子 植竹 貴子 五十嵐 美咲 森田 亜希子	分娩介助技術実技試験	実技試験	予習：事例設定場面に応じた一連の基本的分娩介助技術が安全安楽に実施できるようシミュレーターを用いて練習して臨む。 (学習時間：3時間以上) 復習：実技試験の自己評価、他者評価、教員評価から自己の課題を明確にし、実践に向けて練習する。 (学習時間：3時間以上)
15	青柳 優子 飯田 真理子 植竹 貴子 五十嵐 美咲 森田 亜希子	分娩介助シミュレーション (OSCE：客観的臨床能力試験)	シミュレーション 演習	予習：分娩場面を想定して、分娩経過の判断および産婦とのコミュニケーションを含む一連の分娩介助技術を練習して臨む。 (学習時間3時間以上) 復習：分娩介助における自己の課題を明確にし、臨地実習での実践に向けて練習する。 (学習時間3時間以上)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	助産診断技術学Ⅳ（産褥期）	必修・選択	選択
英語科目名	Midwifery practice Ⅳ	対象学年	4年
開講学期	前期	単位数	1単位
代表教員	高島 えり子	ナンバリング	ANL33B3
担当教員	青柳 優子※、高島 えり子※、植竹 貴子※、五十嵐 美咲※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	産褥期の生理、フィジカルアセスメント、心理・社会的アセスメントを理解しながら、産褥期の健康教育、母乳育児支援の方法の実際を学修する。さらに、産褥期の異常とその支援、ハイリスク異常褥婦のアセスメントとその支援方法を学修する。				
授業の位置づけ	「周産期の看護」「母性看護学実習」の学修内容を基盤とし、褥婦の健康状態及び産褥経過に関わる助産診断、褥婦の援助技術を理解しながら、褥婦に対して適切な助産診断と助産技術を実践できる基礎的能力を学修する。したがって、助産師教育「助産診断技術学」における妊産褥婦のアセスメント、およびそれに基づく支援の理解を深め、助産学実習の基礎と位置づける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-Ⅲ、○DP1-Ⅳ、○DP2-Ⅰ、○DP2-Ⅱ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥の生理に基づき、産褥期の身体的・心理的变化、社会的適応、家族の発達について説明できる。 2. 産褥期のフィジカルアセスメントに必要な診察技術を実施できる。 3. 褥婦の身体的回復と、効果的な母乳育児支援、家族の発達の支援について説明できる。 4. 産褥期に起こり得る異常について説明できる。 5. ハイリスク・異常の褥婦に対する援助について説明できる。 6. 母子を取りまく子育て支援を理解し、継続支援の必要性について考察できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	周産期の看護、ウィメンズヘルスナーシング、助産診断技術学総論、助産診断技術学Ⅰ、助産診断技術学Ⅴ				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師国家試験受験資格取得希望者には必須科目である。 2. これまで習得してきた産褥に関する基本的知識と技術を用いて主体的に臨むこと。 3. 授業は毎回の事前課題による予習のもとに展開される。 4. 健康教育、母乳育児支援については、シミュレーション演習を通して援助を学修する。 				
成績評価の方法					
評価方法	定期試験(70%)、課題レポート(30%)				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥の生理に基づき、産褥期の身体的・心理的变化、社会的適応、家族の発達について説明できる。 2. 産褥期のフィジカルアセスメントに必要な診察技術を実施できる。 3. 褥婦の身体的回復と、効果的な母乳育児支援、家族の発達の支援について説明できる。 4. 産褥期に起こり得る異常について説明できる。 5. ハイリスク・異常の褥婦に対する援助について説明できる。 6. 母子を取りまく子育て支援を理解し、継続支援の必要性について考察できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
事前学習課題は、各授業内でコメントをする。 課題レポートは、提出後2週間以内にフィードバックする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ【2】 分娩期・産褥期 第6版	我部山キヨ子、藤井知行編集	医学書院		
参考文献					
母乳育児支援スタンダード第2版、NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編集、医学書院					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと etakashi@juntendo.ac.jp）				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	高島 えり子	1. 産褥期の診断過程とフィジカルアセスメント 1-1 退行性変化のアセスメント 1-2 進行性変化のアセスメント 1-3 心理・社会的変化のアセスメント 1-4 家族の発達のアセスメント	GW	予習：テキスト第2部第9、10章を読み、架空事例（妊娠期からの継続事例）のアセスメントを行う。 （学習時間2時間） 復習：産褥期の身体的・心理的变化、社会的適応、家族の発達について復習する。 褥婦のフィジカルアセスメントについて整理する。（学習時間2時間）
2	高島 えり子	2. ハイリスク褥婦の診断過程	GW	予習：テキスト第2部第12、13章を読み、架空事例（妊娠期からの継続ハイリスク事例）のアセスメントを行う。 （学習時間2時間） 復習：ハイリスク褥婦へのアセスメント、支援について整理する。 （学習時間2時間）
3	青柳 優子 五十嵐 美咲	3. 産褥期の健康教育 3-1 産褥早期の保健指導	GW シミュレーション 演習	予習：テキスト第2部第11章を読み、架空事例の褥婦の保健指導を計画立案する。 （学習時間3時間） 復習：褥婦への健康教育について整理する。 （学習時間1時間）
4	高島 えり子	3-2 産後の家庭訪問	GW シミュレーション 演習	予習：テキスト第2部第11章を読み、架空事例の産後家庭訪問の計画立案する （学習時間2時間） 復習：退院後の褥婦の支援についてまとめる （学習時間2時間）
5	高島 えり子	4. ハイリスク・異常褥婦への支援	講義 GW	予習：テキスト第2部第12章、第13章を読む （学習時間2時間） 復習：産褥期の異常について整理する。 （学習時間2時間）
6	植竹 貴子	5. 母乳育児支援 5-1 母乳育児継続の支援	講義 GW	予習：テキスト第2部第14章を読む （学習時間2時間） 復習：母乳育児支援について整理する。 （学習時間2時間）
7	植竹 貴子	5-2 乳房トラブルへの支援	講義 GW	予習：母乳育児に関連した観察方法をまとめる。 （学習時間2時間） 復習：乳房トラブルとその対応方法について整理する。 （学習時間2時間）
8	高島 えり子	6. 子育て支援	講義 GW	予習：子育てを行う対象のニーズについて調べる （学習時間2時間） 復習：子育て支援について整理する （学習時間2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	助産診断技術学V（新生児・乳児期）	必修・選択	選択
英語科目名	Midwifery practice V	対象学年	4年
開講学期	前期	単位数	1単位
代表教員	森田 亜希子	ナンバリング	ANL33B4
担当教員	大月恵理子※、植竹貴子※、西崎直人※、森田亜希子※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	出生直後の新生児のフィジカルアセスメントとケア、新生児の異常と管理、NICUとハイリスク新生児のケアについて理解し、乳児の発達発育と精神運動機能発達、健康診査とケアについて学習する。			
授業の位置づけ	大項目「看護の理論と方法」の「ウィメンズヘルスと看護」に位置する。周産期の看護、母性看護学実習の学びに基づき、さらに出生直後の新生児やハイリスク新生児への看護を学ぶことで、統合実習（母性看護）などにつながる科目である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ODP2-I, ◎DP2-II, ODP2-III, ODP3-I			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新生児の生理変化、子宮外適応過程を促す援助について説明できる。 2) 新生児のフィジカルアセスメントに必要な診察技術を実施できる。 3) 出生直後の母児早期接触の実際とパースレビューについて説明できる。 4) 新生児の蘇生法についてシミュレーターを用いて実施できる。 5) 新生児の異常とその支援について理解できる。 6) ハイリスク新生児とその家族に必要な援助を説明できる。 7) 乳児期のフィジカルアセスメントに必要な診察技術を実施できる。 8) 新生児・乳児期に必要な栄養を説明できる。 			
先修要件	なし			
関連科目	周産期の看護、助産診断技術学総論、母性看護学実習、統合実習（母性看護）			
学修上の注意				
成績評価の方法				
評価方法	定期試験（50%）、演習参加状況および課題レポート（50%）を統合して評価する。			
評価基準	到達目標1)～8)の達成度で評価する			
試験・課題に対するフィードバック方法				
事前学習については、授業中に確認する。事後課題は、提出後1週間を目安にコメントを返却する。試験結果については、結果公表後、メールにて質問を受け付ける、もしくは時間調整の上面談する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
助産学講座 助産診断・技術論Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期	石井邦子, 廣間武彦編	医学書院	978-4-260-04219-2	
日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト	細野 茂春	メジカルビュー社	978-4-7583-1998-0	
参考文献				
仁志田博司「新生児学入門 第5版」医学書院、2018（ISBN：978-4-260-03625-2）				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時メールにて受け付ける（a.morita.zj@）。面談を希望する場合は事前にメールにて連絡する。			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1-2	森田亜希子	1. 出生直後の新生児の診断技術 [キーワード] 新生児の適応生理、子宮外生活への適応を促す看護、フィジカルアセスメント	演習	予習：出生直後の新生児（事前課題事例）のフィジカルアセスメントに必要な診察技術について、助産学講座テキスト第2章Dを予め読み、まとめておくこと。（学習時間120分） 復習：新生児の子宮外適応を促す診察技術について反復練習する。（学習時間60分）
3	森田亜希子	2. 出生直後の母児早期接触とパースレビュー [キーワード] 母子早期接触、パースレビュー	演習	予習：母児早期接触の効果、方法、留意点についてまとめておくこと。パースレビューの目的、方法についてまとめておくこと。（学習時間60分） 復習：母児早期接触の管理方法について整理しておくこと。適切なパースレビューの方法について整理しておくこと。（学習時間30分）
4-6	西崎直人	3. 新生児の異常と管理 [キーワード] 早産児、低出生体重児、異常の早期発見と支援	講義	予習：助産学講座テキスト第4章AおよびB、第5章AおよびBを読み、新生児の異常についてまとめておくこと。（学習時間90分） 復習：早産児、低出生体重児、新生児の異常の管理について整理しておくこと。（学習時間60分）
7-8	西崎直人、大月恵理子、森田亜希子	4. 新生児蘇生法 [キーワード] 新生児仮死、新生児蘇生法（NCPR）	演習	予習：テキストを読み、新生児蘇生法（NCPR）を実施する際に必要な知識と技術についてまとめておくこと。（学習時間90分） 復習：NCPRガイドラインに基づいた蘇生法について整理しておくこと。（学習時間30分）
9	植竹貴子	5. 乳児期のフィジカルアセスメントとケア [キーワード] 乳児期の成長・発達、養育者、フィジカルアセスメント、乳幼児健診	演習	予習：助産学講座テキスト第3章AおよびBを読み、乳児の健康診査についてまとめておくこと。（学習時間90分） 復習：乳児のフィジカルアセスメントについて整理しておくこと。（学習時間60分）
10	植竹貴子	6. 新生児・乳児期の栄養 [キーワード] 栄養状態のアセスメント、栄養確保のためのケア、母乳栄養、人工栄養、混合栄養、離乳食	演習	予習：助産学講座テキスト第3章AおよびBを読み、乳児期の栄養についてまとめておくこと。（学習時間90分） 復習：乳児期の栄養について整理しておくこと。（学習時間60分）
11-12	大月恵理子	7. ハイリスク新生児の診断過程 [キーワード] ハイリスク新生児、看護診断	演習	予習：ハイリスク新生児における事前学習課題を読み、事例展開を行う。（学習時間120分） 復習：グループワークを通してハイリスク新生児の診断過程について理解を深める。（学習時間60分）
13-15	森田亜希子	8. NICUとハイリスク新生児のケア [キーワード] NICU、ディベロップメンタルケア、ファミリーセンタードケア、保育器	講義、演習	予習：助産学講座テキスト第4章Cを読み、ハイリスク新生児と親・家族への援助についてまとめておくこと。（学習時間60分） 復習：授業内容を再確認し、NICUにおけるケアと親・家族への支援について整理しておくこと。（学習時間30分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	助産管理	必修・選択	選択
英語科目名	Midwifery Management	対象学年	4年
開講学期	前期	単位数	1単位
代表教員	大月 恵理子	ナンバリング	ANL33B5
担当教員	大月恵理子※、青柳優子※、武田智子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	助産業務管理の原理と技法を学習する。助産管理の理念と基本概念、母子保健制度と助産業務に関する法律・規則、助産管理に必要な社会保障制度を学び、病産院や助産所における管理と運営について理解する。				
授業の位置づけ	「看護管理学」や「助産学概論」で学んだ内容を基盤として、助産業務管理の原理と技法を学習し、「助産学実習」での助産管理や地域母子保健の実習の基礎と位置づける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	○DP2-I、○DP2-II、○DP2-III、◎DP3-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産管理の基本概念、関連法規と助産師の業務・責任について説明することができる。 2. 病産院における助産管理の特徴を理解し、多職種連携のあり方を説明することができる。 3. 助産院における助産管理の特徴を理解し、助産所の開設と運営について説明することができる。 4. 地域母子保健活動における助産師の役割を考察することができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	看護管理学、助産学概論、助産診断技術学Ⅰ～Ⅴ、助産学実習、周産期の医療安全				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師国家試験受験資格取得希望者には必須科目である。 2. 助産学概論で学習した知識等を復習した上で臨むこと。 				
成績評価の方法					
評価方法	レポート課題（30%）、筆記試験（70%）				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産管理の基本概念、関連法規と助産師の業務・責任について説明することができる。 2. 病産院における助産管理の特徴を理解し、多職種連携のあり方を説明することができる。 3. 助産院における助産管理の特徴を理解し、助産所の開設と運営について説明することができる。 4. 地域母子保健活動における助産師の役割を考察することができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート課題は、授業内でフィードバックを行う。 課題等に対するフィードバックの希望者には随時対応する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	助産学講座10 助産管理（第6版）		医学書院	978-4-260-04709-8	
参考文献					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成田伸編：助産師基礎教育テキスト 周産期における医療の質と安全（2022年版） 日本看護協会出版会 2022 ISBN：978-4-8180-2373-4 2. 日本助産師会：助産所開業マニュアル2021—開設・管理・運営—（2021年版） 日本助産師会出版会 2021 ISBN：978-4-905023-36-4 3. 我部山キヨ子・武谷雄二編：助産学講座1基礎助産学1助産学概論 第6版 医学書院 2022 ISBN：978-4-260-04708-1 4. 福井トシ子編：新版 助産師業務要覧 第3版【基礎編】2022年版 日本看護協会出版会 2022 ISBN：978-4-8180-2378-9 5. 我部山キヨ子編：助産学講座9地域母子保健・国際母子保健 第6版 医学書院 2023 ISBN：978-4-260-05004-3 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと m-masuda@）				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	大月恵理子	1. 助産管理とは 1) 管理・マネジメントの定義 2) 助産管理の概念 [キーワード] 助産管理、助産師の業務、助産管理に必要な能力	講義 GW	予習：「助産学概論」で学んだ助産師の業務について復習した上で、テキスト「助産管理」第1章Bを読んで、助産管理とは何かを考えてくること。(学習時間：90分) 復習：授業資料、テキスト、参考文献で授業内容確認する。(学習時間：90分)
2	青柳優子	2. 関連法規と助産師の義務・責任 1) 助産に関する関連法規：医療法 2) 助産師の法的責任と義務：医療法 [キーワード] 助産業務と関連法規、助産師の義務と責任	講義 GW	予習：参考文献「助産学概論」付章の関係法規を復習した上で、テキスト「助産管理」第2章を読んで、助産に関する法律にはどのようなものがあるか整理してくること。事前に提示された課題を行ってくること(学習時間：90分) 復習：授業資料、授業内容、助産業務に関する法律を整理し、理解を深める。(学習時間：90分)
3 4	大月恵理子	3. 周産期医療システムとマネジメント 3) 病院における助産管理 4) 診療所における助産管理 5) 周産期医療における多職種連携のあり方 [キーワード] 母体搬送システム、院内助産システム、助産外来、地域連携	講義 GW	予習：テキスト「助産管理」第4章Cを読んで、病産院における助産管理のあり方を考えてくること。(学習時間：各回2時間) 復習：授業内容、授業資料、テキスト、参考文献等で確認しておく。(学習時間：各回2時間)
5	大月恵理子	4. 地域のアセスメント [キーワード] 地域母子保健行政、母子保健関係法規、母子保健制度、母子保健施策、地域母子保健課題	講義 GW	予習：参考文献「地域母子保健・国際母子保健」第3章、第4章を読んだ上で、地域における助産師の活動のために地域における母子保健課題の把握にはどのようなものがあるか考えてくること。(学習時間：90分) 復習：授業内容、授業資料を確認し、整理しておく。(学習時間：90分)
6 7	武田 智子	5. 助産所における助産管理 1) 助産師の法的責任 2) 助産所開設の実際 3) 助産所の管理 4) 助産所における業務の実際 [キーワード] 助産所、助産所開設、助産所の管理、助産所における業務	講義	予習：参考文献「助産所開業マニュアル」I～IVを読んで、事前に提示された課題を行ってくること。(学習時間：各回90分) 復習：授業内容、授業資料、テキストを確認しておく。(学習時間：各回90分)
8	大月恵理子	6. 地域母子保健における助産師の役割	予習：参考文献「地域母子保健・国際母子保健」第4章を読んだ上で、地域における助産師の活動にはどのようなものがあるか考えてくること。(学習時間：90分) 復習：授業内容、授業資料を確認し、整理しておく。(学習時間：90分)	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	周産期の医療安全	必修・選択	選択
英語科目名	Safety in Perinatal Care	対象学年	4年
開講学期	前期	単位数	1単位
代表教員	大月 恵理子	ナンバリング	ANL33B6
担当教員	大月恵理子※、森田亜希子※、島守洋子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	母子保健福祉の動向を理解し、母子および家族の健康を高めるためのマネジメントのあり方、周産期医療システムの連携のあり方を学習する。周産期医療における安全管理（医療事故、災害）について理解する。				
授業の位置づけ	「看護の質と安全管理」および「助産学概論」等の助産学の授業で学修した内容を基盤として、周産期医療における安全管理について学修し、「助産学実習」の基礎と位置づける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	○DP2-I、○DP2-II、○DP2-III、◎DP3-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母子保健福祉の動向と周産期医療の現状を説明することができる。 2. 周産期医療システムと周産期医療における連携を説明することができる。 3. 周産期におけるリスクマネジメントを説明することができる。 4. 周産期における医療事故を分析し、助産師の役割を考察することができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	看護の質と安全管理、助産学概論、助産診断技術学Ⅰ～Ⅴ、助産管理、助産学実習				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師国家試験受験資格取得希望者には必須科目である。 2. 助産学概論で学習した知識等を復習した上で臨むこと。 				
成績評価の方法					
評価方法	レポート課題（30%）、筆記試験（70%）により評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母子保健福祉の動向と周産期医療の現状を説明することができる。 2. 周産期医療システムと周産期医療における連携を説明することができる。 3. 周産期におけるリスクマネジメントを説明することができる。 4. 周産期における医療事故を分析し、助産師の役割を考察することができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート課題は、提出後1か月以内にフィードバックを行う。 課題等に対するフィードバックの希望者には随時対応する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	助産学講座10 助産管理（第6版）		医学書院	978-4-260-04709-8	
参考文献					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成田伸編：助産師基礎教育テキスト 周産期における医療の質と安全（2022年版） 日本看護協会出版会 2022 ISBN：978-4-8180-2373-4 2. 日本助産師会：助産所開業マニュアル2021—開設・管理・運営—（2021年版） 日本助産師会出版会 2021 ISBN：978-4-905023-36-4 3. 我部山キヨ子・武谷雄二編：助産学講座1基礎助産学1助産学概論 第6版 医学書院 2022 ISBN：978-4-260-04708-1 4. 福井トシ子編：新版 助産師業務要覧 第3版【基礎編】2022年版 日本看護協会出版会 2022 ISBN：978-4-8180-2378-9 5. 我部山キヨ子編：助産学講座9地域母子保健・国際母子保健 第6版 医学書院 2023 ISBN：978-4-260-05004-3 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと m-masuda@）				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	大月恵理子	1. 周産期における医療安全管理	講義 GW	予習：新聞報道などから、日本の周産期医療の現状を考えてくること。(学習時間：90分) 復習：授業資料を確認して整理しておくこと。(学習時間：90分)
2	大月恵理子	2. 日本の周産期医療システムと周産期医療システムにおける連携 [キーワード] 周産期医療の集約化と連携、周産期医療ネットワーク	講義 GW	予習：使用テキスト第3章Aを予め読んでおくこと。(学習時間：90分) 復習：授業資料とテキストの該当箇所を確認して整理しておくこと。(学習時間：90分)
3	島守 洋子	3. 周産期医療における安全管理の実際 [キーワード] 病院における医療安全、感染管理、災害対策	講義	予習：使用テキスト第3章Bを予め読んでおくこと。(学習時間：90分) 復習：授業資料とテキストの該当箇所を確認して整理しておくこと。(学習時間：90分)
4	大月恵理子	3. 周産期医療における安全管理の実際 [キーワード] 周産期医療システム、産科医療補償制度	講義 GW	予習：使用テキスト第3章Bを予め読んでおくこと。(学習時間：90分) 復習：授業資料とテキストの該当箇所を確認して整理しておくこと。(学習時間：90分)
5 6	大月恵理子	4. 事故事例の分析 [キーワード] 事故事例、事故分析	講義 GW	予習：予め提示された事例について考えてくること。(学習時間：各回90分) 復習：授業資料と分析結果を確認して整理しておくこと。(学習時間：各回90分)
7 8	森田亜希子	5. 災害対策 [キーワード] 災害対策、災害時の支援、避難所運営	講義 GW (避難所HUG)	予習：災害対策および災害時の支援について考えてくること。(学習時間：90分) 復習：授業資料と授業内容を確認して整理しておくこと。(学習時間：90分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	助産学実習	必修・選択	選択
英語科目名	Practicum in Midwifery	対象学年	4年
開講学期	後期	単位数	10単位
代表教員	大月 恵理子	ナンバリング	ANL33B7
担当教員	大月恵理子※、青柳優子※、飯田真理子※、森田亜希子※、高島えり子※、植竹貴子※、梶川美菜※、五十嵐美咲※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	助産学の理論と技術を実践の場で統合し、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある母子とその家族に応じた、エビデンスに基づく助産活動を実践するための基礎的能力を習得する。また、妊娠期から子育て期までの包括的な支援の実践を理解するとともに、その中での助産師の役割を学ぶ。				
授業の位置づけ	大項目「看護の理論と方法」の「ウィメンズヘルスと看護」に位置づく。これまでの助産学関連科目での学びを統合する科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-II, ○DP2-I, ○DP2-III, ○DP3-I				
到達目標	<p>1. 子育て世代包括支援における助産活動</p> <p>1) 継続事例における助産活動</p> <p>(1) 妊娠・分娩・産褥・新生児期の各期における健康診査及び助産診断ができる。</p> <p>(2) 助産診断に基づく助産計画を立案し、実施・評価できる。</p> <p>(3) 妊婦・産婦に対する保健指導を計画、実施、評価できる。</p> <p>(4) 切れ目のない子育て支援の視点を持ち、地域母子保健との関連について考察できる。</p> <p>2) 地域における助産活動</p> <p>(1) 市町村における母子保健事業の位置づけと役割を説明することができる。</p> <p>(2) 母子保健活動における地域での連携のあり方を説明することができる。</p> <p>(3) 助産所における助産管理の実践を説明できる</p> <p>(4) 助産業務の実践を通して助産師の責任と役割を考察できる。</p> <p>(5) 地域で活動する助産師の役割について考察できる。</p> <p>2. 分娩期の助産活動</p> <p>1) 妊娠期の経過をふまえ、分娩期における母子の総合的な診断ができる。</p> <p>2) 分娩経過に応じた助産診断の修正ができる。</p> <p>3) 基本的分娩助産技術を10例程度実践できる。</p> <p>4) 正常範囲からの逸脱の可能性を予測するとともに、異常発生時の助産師としての対応が説明できる。</p> <p>5) 定期的なリフレクションを通して、自己評価能力を高めることができる。</p> <p>6) 周産期の対象に関わるチームとしての活動ができる。</p>				
先修要件	助産師国家試験受験資格取得に必要な講義演習科目が不合格の場合、原則として助産学実習は履修できない				
関連科目	母性看護学概論、周産期の看護、母性看護学実習、ウィメンズヘルスナーシング、助産診断技術学総論、母性の心理・社会学、助産診断技術学Ⅰ～Ⅴ、助産管理、周産期の医療安全				
学修上の注意	<p>1. 助産師国家試験受験資格取得希望者には必修科目である。</p> <p>2. 実習目的・目標を理解した上で事前準備を周到に行うことが必要である。</p> <p>3. 実習中は、実習目標達成状況をその都度評価しながら次の課題を明確にして進める。</p> <p>4. 関連科目の学びを統合し、積極的に実践に取り組むことを期待する。</p> <p>5. 実習内容の進行状況によって実習時間の延長や変更の可能性があるため、体調管理に十分に配慮する。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	実習内容・実践（50%）、実習記録・課題レポート（50%）を統合して評価する。				
評価基準	<p>以下の項目について到達目標 1. および 2. の達成度に基づき評価する</p> <p>1) 継続事例の妊娠期における助産過程が実践できる</p> <p>2) 分娩期の助産診断および助産診断の修正ができる</p> <p>3) 分娩助産が実践できる</p> <p>4) 産褥期の助産過程が実践できる</p> <p>5) 新生児期の助産過程が実践できる</p> <p>6) 継続事例の退院後の母子への助産過程が実践できる</p> <p>7) 地域における助産活動について説明できる</p> <p>8) 適切な自己評価ができ、自己の課題を明確化できる</p>				
試験・課題に対するフィードバック方法					
定期的なリフレクションとカンファレンスを行い、目標達成状況を自己評価できるよう支援する					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
履修済みの関連授業科目のテキスト、参考書等を活用すること。その他、必要時紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時メールにて受け付ける。面会が必要な場合は事前にメールにて連絡する。 科目責任者：大月恵理子 e.otsuki.up@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～9週	大月恵理子、 青柳優子、飯 田真理子、森 田亜希子、高 島えり子、植 竹貴子、梶川 美菜、五十嵐 美咲	1. 妊娠期の助産活動（継続事例） (1) 妊婦の助産診断・助産計画 (2) 妊婦の健康診査 (3) 個別保健指導 (4) 母親学級、両親学級の見学 (5) 異常のある妊婦の妊婦健診の見学 2. 分娩期の助産活動（継続事例を含む） (1) 産婦の助産診断・助産計画 (2) 産婦の健康診査 (3) 産婦への基本的ニード・心理面のケア (4) 産痛緩和 (5) 家族へのケア (6) 経産分娩の介助 (7) 出生直後の早期接触への援助 (8) 出生直後の新生児の健康診査 (9) 出生直後の新生児に必要な処置およびケア (10) 分娩後の産婦の観察およびケア (11) 異常分娩（帝王切開術、急速遂娩術）の見学 3. 産褥期の助産活動（継続事例を含む） (1) 褥婦の助産診断・助産計画 (2) 褥婦の健康診査 (3) 褥婦の健康生活への援助 (4) 母乳栄養確立への援助 (5) パースレビュー、心理面のケア (6) 個別保健指導 (7) 母子関係、父子関係確立への援助 4. 新生児期の助産活動（継続事例を含む） □ (1) 新生児の助産診断・助産計画 (2) 新生児の健康診査 (3) 新生児の子宮外生活適応への援助 5. 退院後の母子に対する助産活動（継続事例） (1) 家庭訪問、電話訪問 (2) 1か月健診	実習	予習：妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の助産過程展開方法を復習しておく。妊婦・褥婦・新生児の健康診査の技術を修得しておく。基本的な分娩介助技術を修得する。（学習時間180分） 復習：母子に対するケアの評価、および自己評価を行う。（90分）
10週	大月恵理子、 青柳優子、飯 田真理子、森 田亜希子、高 島えり子、植 竹貴子、梶川 美菜、五十嵐 美咲	6. 地域における助産活動 1) 保健センターにおける母子保健事業と助産活動 (1) 当該地域の特性と健康課題を理解する。 (2) 市町村での母子保健事業の実際について説明を受ける。 (3) 母子保健事業の実際を学び、実践可能な援助に参加する。 ① 母子の家庭訪問 ② 乳幼児健康診査 ③ 母親学級・両親学級、育児学級など 2) 子育て支援施設の助産活動 (1) 子育て支援施設で行われている母子保健活動の実際を学び、実践可能な援助に参加する。 ① 母乳育児支援 ② 育児相談 ③ 産後ケア 3) 助産所における助産活動 (1) 助産所の施設、設備、管理の実際について説明を受ける。 (2) 助産所で提供される対象の健康問題・ニーズに対する看護の実際を学び、実践可能な援助に参加する。 (3) 助産業務に必要な法的文書の記載と取り扱いについて見学する。	実習	予習：対象地域の特性、健康課題（問題）について調べる。実習施設に関する基礎知識を確認し、実習計画を立案する。（180分） 復習：実習で学修した内容を確認して整理しておく。（90分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	精神看護学実習	必修・選択	必修
英語科目名	Psychiatric Nursing Practicum	対象学年	4年
開講学期	前期	単位数	2単位
代表教員	阿部 美香	ナンバリング	PNL34A3
担当教員	水野恵理子※ 松浦彩美※ 阿部美香※ 重田ちさと※ 大島泰子※ 櫻沢早人 子※ 須藤りつ※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	精神の健康に障害を持つ人々を理解し、その人の人権を擁護しながらセルフケア能力を高め、地域生活へ繋げていくために必要な看護を実践できる基礎的能力を養う。				
授業の位置づけ	精神看護学実習は、エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力を身につけ、臨床看護につなげる基礎と位置付ける。精神保健学、精神看護学概論、精神の健康障害と看護、精神看護方法論Ⅰ・Ⅱで学んだ知識や技法を基に、実際の対象者との対人関係、観察やアセスメント、個別性に合わせた支援を実践する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	本科目を学習することで、以下の能力の基礎が身につきます。 ○DP1-Ⅲ：倫理的課題に対応できる基礎的能力 ○DP1-Ⅳ：人間関係を構築できるコミュニケーション能力 ○DP2-Ⅰ：医学および関連領域の知識を看護に応用できる能力 ◎DP2-Ⅱ：エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力 ○DP2-Ⅲ：健康レベルに応じた看護を展開する能力 ○DP3-Ⅰ：保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力				
到達目標	1. 受け持ち患者との相互理解と信頼関係を築くことを通して、治療的関係とは何かを理解できる 2. 受け持ち患者の症状や言動を諸理論を用いて分析し、看護過程を展開することができる 3. 精神科医療における治療や治療環境の特殊性を理解し、看護師の役割とは何か理解できる 4. 精神障害者を「生活者」として理解し、退院促進と地域生活支援の方法を理解できる 5. 看護学生としての学習態度を身に付ける				
先修要件	精神看護方法論Ⅰ 精神看護方法論Ⅱ				
関連科目	精神保健学（1年後期） 精神看護学概論（2年前期） 精神の健康障害と看護（2年後期） 精神看護方法論Ⅰ（3年前期） 精神看護方法論Ⅱ（3年前期）				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習は、以下の8項目を手書きでノートにまとめ、実習初日に担当教員に提出する。（コピーは不可） 1. 精神保健福祉法（処遇/人権擁護の方法、入院形態、身体拘束、安静室使用、通信、精神保健指定医制度等） 2. リスクマネジメント：予測される患者に関わる事故・危険事項およびその予防法 3. 主な精神障害（認知症を含む）と主症状、主な検査方法 4. 精神科における治療法・各種療法（薬物療法、修正型/電気痙攣療法m-ECT/EST、作業療法OT、精神療法等・看護について） 5. 外来・訪問看護・デイケア・生活療法・社会生活技能訓練SST・レクリエーションの目的または意義、多職種連携 6. 精神障害者の社会復帰をサポートする人的資源や社会資源（障害者総合支援法に規定される精神障害者通所施設や各種サービス、自立支援医療等）、障害年金、生活保護制度、精神障害者福祉手帳制度 7. 国際生活機能分類ICF生活機能構造モデルを通して障害の理解、社会参加支援の方法について確認 8. 当事者を主体とした援助方法（リカバリーモデル、ストレングスモデル） <p>・実習のスケジュールは、実習する施設によって異なるため、詳細は実習オリエンテーションで説明する。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	実習内容と実習記録、課題のレポート、カンファレンス参加状況をもとに、5つの到達目標の達成度（各20%）について評価し、合否判定を行う。				
評価基準	1. 受け持ち患者との相互理解と信頼関係を築くことを通して、治療的関係とは何かを理解できたか 2. 受け持ち患者の症状や言動を諸理論を用いて分析し、看護過程を展開することができるか 3. 精神科医療における治療や治療環境の特殊性を理解し、看護師の役割とは何か理解できたか 4. 精神障害者を「生活者」として理解し、退院促進と地域生活支援の方法を理解できたか 5. 看護学生としての学習態度が身に付いたか				
試験・課題に対するフィードバック方法					
実習記録、課題のレポートは、卒業試験の時期に返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
1. 精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 第2版 田中美恵子編著 医歯薬出版株式会社 2015. 2. ストレングスからみた精神看護過程+全体関連図、ストレングス・マッピングシート 萱間真美編集 医学書院 2021. 3. 精神看護の看護過程 水野恵理子・岩崎みず編著 サイオ出版 2020. 4. ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 出口禎子・鷹野朋実編集 メディカ出版 2023. 5. ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 出口禎子・鷹野朋実編集 メディカ出版 2023.					
その他					
連絡先・オフィスアワー	担当教員のメールアドレスに随時連絡してください。				
備考	なし				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1日目 ～ 2日目	水野 松浦 阿部 重田 大島 櫻沢 須藤	病棟オリエンテーションと患者決定 精神科病棟の安全管理と特殊性の理解 カルテ、コミュニケーション、観察を通して情報収集 [キーワード] 精神保健福祉法、入院形態、隔離拘束、安全管理、人権擁護	実習	[予習] 1. 指定された事前学習をノートにまとめ 実習初日に担当教員に提出する。 2. コミュニケーション技術、セルフケア 理論について確認する。 (学習時間180分) [復習] 1. 精神保健福祉法に基づく精神科病院の 安全管理(入院形態、隔離/拘束、通信/面 会、危険物の持ち込み等)について、実際 の病棟実習を通してどのような注意が必要 か整理する。 2. 受け持ち患者の全体像をイメージしな がら看護の方向性と必要な情報を整理す る。 (復習時間60分)
3日目	水野 松浦 阿部 重田 大島 櫻沢 須藤	学内 セルフケアの評価と全体像の分析 看護過程の素案作成 (指定された教室に集合、教員から指導を受ける) [キーワード] オレム・アンダーウッドセルフケア理論、発達課題、ストレンクス、 リカバリー、病識、服薬管理、SST、OT、地域生活支援、退院調整、家 族支援	実習	[予習] 1. 受け持ち患者の現病歴、既往歴、治療 について確認する。 2. 症状と生活管理において必要となる観 察項目、退院に向け活用できる社会資源に ついて確認する。 (学習時間90分) [復習] 課題としてセルフケア理論と発達理論を用 いて看護過程の素案を立てる。 (復習時間60分)
4日目 ～ 7日目	水野 松浦 阿部 重田 大島 櫻沢 須藤	患者-看護者関係の構築 担当患者の看護計画の立案/問題と目標の共有 看護計画の実施 ケースカンファレンスにおける看護計画の検討と修正 病棟別実習まとめのカンファレンス 看護計画の評価 地域実習オリエンテーション [キーワード] 精神科看護師の役割、治療的関係、プロセスレコード、自己活用、社 会的入院、訪問看護、継続看護	実習	[予習] 1. 対人関係論、患者-看護者関係につ いて確認する。 2. ストレンクス/リカバリーモデルにつ いて確認する。 (学習時間60分) [復習] 1. 受け持ち患者の看護過程を展開する。 その際、ストレンクス/リカバリーモデル の視点をを用いて計画を立案する。 2. プロセスレコードを通して、受け持ち 患者との治療的関係について振り返る。 3. ケースカンファレンスの内容を統合し て看護計画の評価と修正をする。 (復習時間30分)
7日目 ～ 9日目	水野 松浦 阿部 重田 大島 櫻沢 須藤	指定された社会復帰施設にて2～3日間の実習 (各施設1～4名配置) 各施設で行われているプログラムに参加 [キーワード] 障害者総合支援法、精神保健福祉法、精神保健福祉士、障害者サービ ス事業、障害年金、生活保護、治療継続、リカバリー	実習	[予習] 1. 精神障害者の地域生活支援と諸制度、 就労継続支援A/B型事業所、就労移行支援 事業、地域活動支援センター、クラブハウ ス等についてノートにまとめておく。 2. 精神保健福祉士の役割について確認す る。 (学習時間60分) [復習] 地域で暮らす精神障害者に対する看護師の 役割、他職種連携、精神障害者のケアマネ ジメントについて施設実習を通して学んだ ことをまとめておく。 (復習時間30分)
10日目	水野 松浦 阿部 重田 大島 櫻沢 須藤	学内 精神看護学実習まとめ 報告会	実習	課題：病院実習及び地域精神実習を統合 し、看護師の役割についてまとめ、発表す る。 (学習時間60分) 14時まで実習記録を提出

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	在宅看護学実習	必修・選択	必修
英語科目名	Practicum in Home Care Nursing	対象学年	3,4年
開講学期	複期	単位数	2単位
代表教員	種市 ひろみ	ナンバリング	PNL34B2
担当教員	種市ひろみ※ 菱田一恵※ 松浦志野※ 宮本圭※ 吉田めぐみ※ 石元有美※ 渡邊明子※ 内野良子※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	多様な健康問題を持つあらゆる年代（ライフステージ）の在宅療養者とその家族に対し、生活の場で提供される看護活動の実際を学ぶ。具体的には、訪問看護ステーションの訪問看護師と療養者宅に同行訪問し、在宅看護過程の展開の実際を学び、可能であれば看護を実践する。また、専門職間連携の場へ参加し、日常的に行われている協働の様子を見学する。実習で得た学びをもとに学内でカンファレンスを行い実習体験を共有して学びを深め、在宅看護の意義や課題を考察する。			
授業の位置づけ	看護と理論の方法の中の「ソーシャルライフと看護」の科目のひとつである。在宅看護学は、あらゆる年代を対象とし、多様な疾病や障害をもちながら地域で暮らしている人々への看護について学修する。そのため、看護学概論、看護理論・看護過程、基礎看護方法論、小児・成人・高齢者・精神・公衆衛生看護学概論、人間関係論、家族関係論、社会福祉・社会保障論、看護倫理、の学修が基盤になる。在宅看護学概論を履修後、在宅看護方法論Ⅰにて多様な対象者への看護展開論を学び、在宅看護方法論Ⅱにて在宅看護技術を学び、在宅看護学実習にて臨地実習を行う。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	○DP2-CA、○DP2-CB、◎DP2-CC、○DP3-CA			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の生活を理解できる。 2. 在宅における看護過程を展開できる。 3. 訪問看護師として倫理的配慮のもとに看護を提供する意義を理解できる。 4. 在宅療養における医療・保健・福祉に関する多職種連携と社会資源の活用の重要性を理解できる。 5. 看護者としての自己の役割を理解できる。 			
先修要件	在宅看護方法論Ⅱ			
関連科目	在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ			
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習前に関連科目を復習し、事前課題を行った上で臨むこと。 2. 主体的・積極的に実習をすること。 3. 援助を実施する場合は、訪問看護師と一緒に行うこと。 4. 家庭を訪問しての実習のため、訪問マナーやプライバシーには十分に配慮すること。 			
成績評価の方法				
評価方法	実習内容と実習記録による実習目標の達成度（80%）、実習への参加態度（20%）			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の生活を説明できるか。 2. 在宅における看護過程を展開できるか。 3. 訪問看護師として倫理的配慮のもとに看護を提供する意義を説明できるか。 4. 在宅療養における医療・保健・福祉に関する多職種連携と社会資源の活用の重要性を説明できるか。 5. 看護者としての自己の役割を説明できるか。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
事業所実習中は、教員が事業所へ出向き、課題等に対するフィードバックを行う。希望者には随時メールで受け付ける。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
NICE 地域・在宅看護論Ⅰ 総論（改訂第3版）	石垣和子/上野まり編	南江堂		
NICE 地域・在宅看護論Ⅱ 支援論（改訂第3版）	石垣和子/上野まり編	南江堂		
参考文献				
<ul style="list-style-type: none"> ・角田直枝：スキルアップのための在宅看護マニュアル、Gakken、2010 ・押川 真喜子：新訂版 写真でわかる訪問看護 アドバンス、インターメディカ、2020 ・在宅ケア ナースポケットマニュアル：ウィル訪問看護ステーション、医学書院、2019 				
その他				
連絡先・オフィスアワー	連絡先：各実習担当教員の実習用携帯電話等（オリエンテーション時に開示）			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
	分野内全教員	<p>実習直前オリエンテーション： 原則、実習開始の前の週の金曜日午後、事前オリエンテーションおよび施設別オリエンテーションを行う</p> <p>実習1日目： 各施設にて、施設の概要、療養者の特徴、地域特性、施設の更衣室、控え室などのオリエンテーションを受ける</p> <p>実習1日目～4日目： 一日2～4件の同行訪問 継続して訪問する療養者（在宅看護過程対象者）の決定 多職種間連携の場への参加</p> <p>実習5日目（1週目金曜日学内）： 中間カンファレンス（実習における学びを共有し、思考を整理し、在宅看護計画立案へとつなげる）</p> <p>実習6日目～9日目： 一日2～4件の同行訪問 多職種間連携の場への参加 施設における最終カンファレンス</p> <p>実習10日目（2週目金曜日学内）： 統合カンファレンス（在宅看護実習の学びを共有し、学習の統合をはかる）</p> <p>【キーワード】 生活の理解、対象者の理解、在宅看護過程、看護師としての倫理的配慮、多職種連携、社会資源の活用</p>	訪問看護ステーションにて臨地実習 カンファレンス等の学内実習	<p>【準備】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の到達目標をあらかじめ提出する。 2. 事前学習課題（①～⑫）等を直前オリエンテーションまでに、指定の記録用紙に記載する。 <ol style="list-style-type: none"> ①在宅人工呼吸療法 ②在宅酸素療法 ③吸引（鼻腔、口腔、気管内） ④口腔ケアと嚥下訓練 ⑤在宅経管栄養法（胃瘻の管理を含める） ⑥在宅輸液療法 ⑦排泄支援（排便、洗腸を含める） ⑧在宅膀胱留置カテーテル法 ⑨人工肛門管理 ⑩清潔ケアとフットケア ⑪褥瘡管理 ⑫在宅自己注射法、服薬管理 （学習時間80分） <p>【学内演習最終日までの課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合カンファレンスにおいて、実習目的の達成に向けて協議したいトピックス・テーマを考えておく。 ・看護過程サマリーを作成し、継続して訪問した療養者の看護に関して整理する。 （学習時間80分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政・地域）	必修・選択	選択
英語科目名	Practicum in Public Health Nursing I	対象学年	4年
開講学期	後期	単位数	3単位
代表教員	櫻井 しのぶ	ナンバリング	ANL34C1
担当教員	櫻井しのぶ※、原田静香※、中西唯公※、仲里良子※、板井麻衣※、岡部花枝※、鹿島田祐子※、中山久子※、森永みさ子※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	1. 地域に生活する個人、家族、集団を対象とし、健康レベルや地域特性に応じた健康の保持増進、健康問題の発生および悪化の予防を支援する看護活動の展開について、実践を通して学ぶ。さらに、保健・医療・福祉のあり方について理解を深め、地域看護活動に必要な実践能力を養う。 2. 看護の応用的、専門的実践活動についての理解をさらに深めるために、自らの学習テーマに沿って、既学習内容を総合的に応用し、主体的に探究する。そしてリフレクションを通して保健師活動の在り方を熟考するとともに、科学的思考能力を高め、公衆衛生看護の実践能力を養う。			
授業の位置づけ	本実習は保健師科目に関するすべての単位を取得した上で臨む臨地実習である。カリキュラムマップの「看護の理解と方法」のAdvanced Nursing Levelに位置している。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-Ⅲ、○DP2-Ⅰ、○DP2-Ⅱ、○DP3-Ⅰ			
到達目標	1. 保健所、市町村における衛生行政の機能と役割を説明することができる。 2. 地域診断実習にて抽出した健康問題について、実習を通して再検討した上でその内容を説明することができる。 3. 地域の特性をふまえた健康に関する看護活動（健康教育、健康相談、家庭訪問、健康診査、地区組織活動など）の実践的な展開方法を理解（一部、指導者の指導の下に実施）できる。 4. 地域における看護職の役割について説明することができる。 5. 保健・医療・福祉の関係機関との連絡調整、社会資源の活用等を通して連携のあり方を説明することができる。 6. 保健医療福祉チームメンバーとして必要な態度を養い、実行できる。			
先修要件	なし			
関連科目	公衆衛生看護学概論、保健学概論、地域生涯保健活動論、公衆衛生看護活動論、地域診断論、保健医療福祉行政論、学校保健、産業保健、地域包括ケアシステム論、統合実習、公衆衛生看護学実習Ⅱ			
学修上の注意	1. 実習担当地域の地域踏査、地域診断を積極的に実施し、担当教員と十分に検討しておくこと。 2. 地域診断より抽出された担当地域の健康課題解決に向け、自らの実習目的・計画を立てること。 3. 事前課題に取り組み、臨地実習に必要な知識と技術を備えて実習に臨むこと。保健師活動に関するDVD教材は図書館に設置してあるため、必ず事前に視聴しておくこと。 4. 実習期間中は臨地の状況によって経験する保健師活動は様々であるが、実習時間内を活用して学生間でのカンファレンスと情報交換を行い、学びを共有する。			
成績評価の方法				
評価方法	実習内容及び実習記録（70%）、学習者としての姿勢・態度（10%）、実習報告・レポート（20%）			
評価基準	・行政で行われている保健活動について説明ができるか ・地域や対象集団の特性を把握し、その特性と保健師活動との関連を理解し説明することができるか ・公衆衛生における看護職の役割について述べるができるか			
試験・課題に対するフィードバック方法				
課題等についてのフィードバックは、実習中の個別指導の際に各教員からコメント、またはJ-passへの掲示等で行います。また、希望者には随時メールも受け付けます。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆衛生看護学. JP		インターメディカル	978-4-900828-81-0	
国民衛生の動向（最新版）		一般財団法人 厚生労働統計協会	978-4-87511-898-5	
最新公衆衛生看護学総論、各論 1・2		日本看護協会出版会		
参考文献				
保健師業務要覧 日本看護協会出版会				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時（担当教員へ事前にメールで連絡のこと） 櫻井：ssakura@juntendo.ac.jp 原田：sharada@juntendo.ac.jp 中西：ynakani@juntendo.ac.jp 仲里：r-nakazato@juntendo.ac.jp 板井：m.itai.bq@juntendo.ac.jp 岡部：h.okabe.io@juntendo.ac.jp 鹿島田：ykashima@juntendo.ac.jp 中山：hnakaya@juntendo.ac.jp 森永：m-morinaga@juntendo.ac.jp			

備考	<ol style="list-style-type: none">1. 公衆衛生看護学.jp インターイカ2. 国民衛生の動向 厚生労働統計協会3. 保健師業務要覧 日本看護協会出版会4. 最新公衆衛生看護学総論、各論1～2 日本看護協会出版会
----	--

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
	櫻井 しのぶ 原田 静香 中西 唯公 仲里 良子 板井 麻衣 岡部 花枝 鹿島田 祐子 中山 久子 森永 みさ子	<p>実習内容：</p> <p>1) オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設における組織や地域の特徴に関する説明等 <p>2) 学内実習</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の知識についての確認 健診場面における保健指導の演習 家庭訪問演習 特別講義 <p>感染症保健活動（浦川美奈子先生・結核予防会結核研究所） 骨格筋老化の基礎知識と介護予防（町田修一先生・スポーツ健康科学部）</p> <p>3) 臨地実習</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問・健康相談・健康診査・健康教育・地区組織活動の育成・地域ケアシステムの創造等、保健師活動の見学や実践 住民に対する健康教育の実践 健康支援に関する多職種との連携の見学及び説明 健康支援に関連する社会資源の見学、及び説明 等 <p>4) 実習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習報告レポートの作成 地域診断レポートの完成 	<p>実習方法：1グループ3～4名に分かれ、3単位の実習を行う。</p> <p>実習施設：保健所、市町村、産業保健等の臨地において実習を行う。詳細は実習要項等に記す。</p>	<p>【予習】</p> <p>1) 以下について既習の知識の復習をしておく。各項目の詳細な内容については実習要項に記載している。予習の項目については、実習前に確認テストを実施する。（各60～120分）</p> <p>①地域保健活動に関する基礎知識について学習する。</p> <p>②保健師活動時に必要な知識や技術</p> <p>③保健師活動の関連したDVD教材の視聴</p> <p>2) 実習前学内演習の準備</p> <p>詳細は実習要項に記載している。実習オリエンテーションにおいても該当の資料を配布する。</p> <p>①家庭訪問演習について（約120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問計画の立案 訪問計画に立案した内容についての手技の確認 <p>②健康教育の準備（必要時間は実習担当地域の状況による）</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画書、指導案、台本の作成 <p>【復習】</p> <p>担当地域の健康課題解決に向け、地域に適した保健師活動を考える。（約60分）</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	公衆衛生看護学実習II（産業）	必修・選択	選択
英語科目名	Practicum in Public Health Nursing II	対象学年	4年
開講学期	後期	単位数	1単位
代表教員	櫻井 しのぶ	ナンバリング	ANL34C2
担当教員	櫻井しのぶ※、原田静香※、中西唯公※、仲里良子※、板井麻衣※、岡部花枝※、鹿島田祐子※、中山久子※、森永みさ子※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	1. 働く人々や組織を対象とし、企業特性に応じた健康の保持増進、健康問題の発生および悪化の予防を支援する産業保健活動の展開について学ぶ。また、産業保健専門職および安全衛生部門の役割を学び、企業内関係部署との連携および地域との連携について理解を深め、産業看護職の役割を遂行できる能力を養う。 2. 産業保健の応用的・専門的実践活動についての理解をさらに深めるために、自らの学習テーマに沿って、既学習内容を総合的に応用し、主体的に探究する。その結果をレポートとしてまとめ、リフレクションを通して産業保健活動のあり方を熟考することとともに、産業看護職としての能力を養う。				
授業の位置づけ	本実習は保健師科目に関するすべての単位を取得した上で臨む臨地実習である。カリキュラムマップの「看護の理解と方法」のAdvanced Nursing Levelに位置している。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ODP2-II、◎DP2-III、ODP3-I、ODP5-I				
到達目標	1. 企業・事業所における健康支援部門および安全衛生部門の役割を説明することができる。 2. 企業・事業所の特性と健康問題を把握し産業看護職の役割の現状と課題を説明することができる。 3. 他職種・他組織との連携について学び連携における産業看護職の役割を説明することができる。 4. 産業保健における看護職の役割や今後の展望や課題について説明することができる。 5. 産業看護職としてよりよい活動を目指した自己の資質向上のために努力する態度を養い、実行することができる。				
先修要件	なし				
関連科目	公衆衛生看護学概論、地域生涯保健活動論、公衆衛生看護活動論、地域診断論、産業保健、学校保健、地域包括ケアシステム論、公衆衛生看護学実習I（行政・地域）				
学修上の注意	1. 事前に実習先となる企業・事業所の概要を、実習先の企業・事業所ホームページ等を調べてまとめ、そこから抽出した実習先の健康課題解決に向け、自らの実習目的・計画を立てること。 2. 産業保健に必要な知識と技術を備えて実習に臨むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	実習内容及び実習記録（70%）、学習者としての姿勢・態度（10%）、実習報告・レポート（20%）				
評価基準	1. 企業・事業所における健康支援部門および安全衛生部門の役割を説明できるか。 2. 企業・事業所の特性と健康問題を把握し産業看護職の役割の現状と課題を説明することができるか。 3. 他職種・他組織との連携について学び連携における産業看護職の役割を説明することができるか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題等についてのフィードバックは、実習中の個別指導の際に各教員からコメント、またはJ-passへの掲示等で行います。また、希望者には随時メールも受け付けます。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	公衆衛生看護学.jp		インターメディカル	978-4-900828-85-8	最新版
	国民衛生の動向		厚生労働統計協会	978-4-87511-898-5	最新号
	保健師業務要覧		日本看護協会出版会	978-4-8180-2607-0	最新版
	最新公衆衛生看護学総論、各論1～2		日本看護協会出版会		最新版
	産業看護学		日本看護協会出版会	978-4-8180-2606-3	最新版
参考文献					
随時紹介					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（担当教員へ事前にメールで連絡のこと） 櫻井：ssakura@ 原田：sharada@ 中西：ynakani@ 仲里：r-nakazato@ 板井：m.itai.bq@ 岡部：h.okabe.io@ 鹿島田：ykashima@ 中山：hnakaya@ 森永：m-morinaga@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
	櫻井 原田 中西 仲里 板井 岡部 鹿島 田山 中森 永	<p>実習方法：1 グループ 3～10名に分かれ、1 単位の実習を行う。 実習施設：産業保健の臨地において実習を行う。詳細は実習要項等に記す。</p> <p>実習内容： 1) オリエンテーション ・施設における組織に関する説明等 2) 学内実習 ・実習企業・事業所の特性と保健ニーズの抽出 ・保健指導ロールプレイ ・事例検討 3) 臨地実習 ・実習企業・事業所の事業内容・産業保健活動や安全衛生活動についての概要説明を受ける。 ・事業所内を実習企業・事業所の特性を踏まえ、特に労働者の作業環境に注目して見学する。 ・産業保健活動・安全衛生活動について、職場巡視・保健指導・健康教育・安全衛生委員会等の活動を見学する。 ・保健活動・安全衛生活動の法的根拠および企業・事業所の保健ニーズと保健活動の計画、実施、評価など一連の過程を学ぶ。 4) 実習のまとめ ・実習報告レポートの作成 ・グループ毎の学びを発表</p>	<p>実習方法：1グループ3～4名に分かれ実習を行う。 臨地実習：企業において実習を行う。詳細は実習要項等に記す。 学内実習：グループワーク、発表を行う。</p>	<p>予習： 1) 以下について既習の知識の復習をしておく。各項目の詳細な内容については実習要項に記載している。予習の項目については、実習前に確認テストを実施する。(各60～120分) ①産業保健活動の根拠や関連する法律を学習する。 ②労働安全衛生に関する行政機構との連携 ③地域における産業保健推進支援体制</p> <p>2) 実習前学内演習の準備(約120分) 詳細は実習要項に記載している。実習オリエンテーションにおいても該当の資料を配布する。 ①実習企業・事業所の特性把握 ②事例検討 ③職場巡視</p> <p>復習： 実習で学んだ事をもとに、実習先の健康課題解決に向けて、「産業保健における看護職の役割と今後の課題」について考える。(約60分)</p> <p>【キーワード】 労働法規 保健衛生法規 労働衛生の5管理 産業保健総合支援センター トータル・ヘルスプロモーション・プラン</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	医療看護研究II	必修・選択	選択
英語科目名	Health Care and Nursing Research II	対象学年	4年
開講学期	通期	単位数	2単位
代表教員	飯島 佐知子	ナンバリング	ANL42A1
担当教員	飯島佐知子 大西麻未 全専任教員	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	「医療看護研究 I」において立案した研究計画を基盤として、研究過程を実践し発表することを通して、看護を科学的に実践する態度を養う。				
授業の位置づけ	教員の指導のもとに、学生各自が「医療看護研究 I」で立案した研究計画に沿って、データ収集、分析評価、論文作成の一連の研究過程を実践する				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	本科目を学修することで、以下の能力の基礎が身につきます。 ◎DP5-CA：生涯にわたり専門職者として研鑽し続ける能力 ◎DP2-CA：医学および関連領域の知識を看護に活用できる能力 ◎DP2-CB：エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力				
到達目標	1) 教員の指導のもとに、学生各自が「医療看護研究 I」で立案した研究計画に沿って、データ収集、分析評価、論文作成の一連の研究過程を実践できる。 2) 研究結果を口演発表し、教員・学生と共有してディスカッションできる。				
先修要件	看護研究の原理と方法、医療看護研究 I				
関連科目	ゼミナール、看護研究の原理と方法、医療看護研究 I、情報科学、統計学、統計演習				
学修上の注意	指導担当教員との綿密な連絡をとりながら、主体的に研究を進めることが求められる。				
成績評価の方法					
評価方法	提出論文の内容(60%)、研究発表の内容(40%)を総合して評価する。				
評価基準	提出論文については以下の7点を満たすこと。 1. 先行研究に関するレビューにより、これまで明らかになっていることを整理して記述している 2. 先行研究に関するレビューにより、これまで明らかになっていないことは何かを明確に記述している。 3. 社会的背景を踏まえて、その研究をする意義が述べられている。 4. 目的が明確である。 5. 目的を明らかにするために適切な研究方法が記述されている。 6. 得られた結果について、先行研究を踏まえた考察が記述されている。 7. 得られた結果から妥当な結論が述べられている。 研究発表については以下の2点を満たすこと。 1. 研究の背景、先行研究、研究の意義、目的について聴衆にわかりやすく説明できる 2. 方法、結果、考察、結論について聴衆にわかりやすく説明できる				
試験・課題に対するフィードバック方法					
論文等に対するフィードバックの希望者には随時メールで受け付ける。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	これからの看護研究「基礎と応用」第3版	小笠原知枝, 松木光子編集	ヌーベルヒロカワ, 2012.		
参考文献					
必要に応じて、担当教員より文献を提示する。 アメリカ心理学会 (APA) : APA 論文作成マニュアル第2版 : 医学書院 2011 小塩真司 : 第3版 SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析 因子分析・共分散構造分析まで 東京図書 2018 阿部陽子 訳 : 看護研究のための文献レビュー マトリックス式 医学書院 2012 康永 秀生 : 必ずアクセプトされる医学英語論文 完全攻略50の鉄則 金原出版 2016 近藤潤子監訳 : 看護研究-原理と方法-第2版, 医学書院, 2010.					
その他					
連絡先・オフィスアワー	担当教員に連絡すること				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	各教員	研究計画書の確認、行動計画の立案 [キーワード] 研究計画書、データ収集		[予習] (学習時間90分) 医療看護研究Iで作成した研究計画書を見直し、論文提出・発表までの行動計画を考えておく。 [復習] (学習時間90分) 行動計画に基づき、データ収集の準備を進める。
2 3	各教員	データ収集準備 : 質問紙、インタビューガイドの最終確認・完成、実験手順や物品・環境準備、説明・同意の準備 [キーワード] サンプリング、倫理的配慮、プロトコル		[予習] (学習時間90分) 研究対象に協力を得る方法や説明の仕方を考えておく。 質問紙やインタビューガイドについて他者の意見を得るなどしておく。 [復習] (学習時間90分) 教員やグループからの意見に従って、時間や場所を含むデータ収集方法と手順を確認しておく。
4 5 6 7 8 9 10	各教員	データ収集 [キーワード] データ収集、データ分析		[予習] (学習時間90分) 担当教員の指示に従い、各自のデータ収集に必要な準備を行う。 [復習] (学習時間90分) 担当教員からの指示に従い、データ分析の方法を学ぶなど、次回の授業までの準備を進める。
11 12 13 14 15 16 17	各教員	データ分析 [キーワード] 統計解析、質的分析		[予習] (学習時間90分) 自身の収集したデータ及び研究目的に従い、適切な分析方法について学ぶ。適宜、担当教員に提示するための資料を作成する。 [復習] (学習時間90分) 教員から指示に従い、次回までの準備を行う。
18 19 20 21	各教員	分析結果の整理・考察 [キーワード] データ分析、考察		[予習] (学習時間90分) 分析結果から図表を作成したり、結果の意味について考える。考察に必要な文献を集める。 [復習] (学習時間90分) 教員からの指示に従い、次回までの準備をしておく。
22 23 24 25	各教員	論文作成 [キーワード] 論文の構成		[予習] (学習時間90分) 図表の作成や引用文献リストを作成する。 [復習] (学習時間90分) 教員からの指示に従い、次回までの準備をしておく。
26 27	各教員	研究発表準備 [キーワード] 口演発表		[予習] (学習時間90分) 発表要領を確認しスライド・原稿作成を進める。 [復習] (学習時間90分) 教員の指示に従い、次回までの準備を行う。
28	各教員	研究発表会での発表 [キーワード] 研究論文、口演発表		[予習] (学習時間90分) 発表原稿の最終確認、発表練習を行う。 [復習] (学習時間90分) 発表後の質疑応答の内容について、論文の考察に追加する必要があるれば追記する。
29	各教員	研究論文の完成 緒言、目的、方法、結果、考察、図表に論理的一貫性があるかを指導教員とともに再度確認する。 [キーワード] 研究論文		[予習] (学習時間90分) 論文の最終確認を行う。 [復習] (学習時間90分) 教員からの指導を受けたことを確認し、論文を修正する。
30	各教員	論文提出 文献リストの記述は「医療看護研究」の執筆規定に準じているかを確認する。 [キーワード] 研究論文		[予習] (学習時間90分) 論文の最終確認を行う。 [復習] (学習時間90分) 一連の研究実施過程で学んだことを整理する。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	医療と看護政策	必修・選択	選択
英語科目名	Health Care and Nursing Policies	対象学年	4年
開講学期	前期	単位数	1単位
代表教員	大西 麻未	ナンバリング	ANL44A1
担当教員	大西麻未※ 石田昌宏※ 伊勢田暁子※ 窪田和巳※ 橋本美穂※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	近年の保健医療の動向を踏まえ、変動する社会ニーズに合った質の高い看護を提供するために、我が国の医療・看護の政策がどのように機能しているか、今後の課題にはどのようなものがあるか、看護職としてどのように政策に関われば良いのかについて理解する。				
授業の位置づけ	国内外の社会の動向およびそれに基づくニーズを理解し、それらの動向に対応する医療・看護政策について知ることにより、社会の変化に応じた看護のあり方を広く考える視点を身につけ、国や地域レベルでの問題解決の方法について理解することをめざす。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ODP3-I、OD4-I				
到達目標	1) 看護政策とは何かを理解し、学ぶことの重要性を理解できる。 2) 我が国において現在重要な看護政策について理解できる。 3) 変動する社会ニーズと医療・看護政策の関連について理解できる。 4) 看護政策の現状と課題について自分の意見を述べるができる。				
先修要件	なし				
関連科目	看護管理学、法と生活、現代社会と経済、医療の歴史、世界の医療・福祉制度				
学修上の注意	講義では積極的に質問するなど、主体的に参加すること。日頃からニュースなどを通じて、自分の関心のある医療・看護の問題はどんなものか考えておくこと。				
成績評価の方法					
評価方法	授業内での発表(30%)、授業への参加状況(20%)、レポート(50%)				
評価基準	1) 看護政策を学ぶことの重要性について説明できる。 2) 我が国において現在重要な看護政策についてその背景や意義を説明できる。 3) 変動する社会ニーズと医療・看護政策の関連について説明できる。 4) 自分の関心のある医療・看護上の政策を取り上げ、その現状と課題について自分の意見を述べられる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
発表内容については授業内でフィードバックする。 レポートは授業の全体予定終了後、返却時にコメントをする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
日本看護協会編「日本看護協会の政策提言活動」日本看護協会出版会、2010 見藤陸子・石田昌宏・大串正樹・北浦暁子・伊勢田暁子「看護職者のための政策過程入門」日本看護協会出版会、2007					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと） 大西 mami-o@juntendo.ac.jp				
備考	授業のつど資料配布 外部講師の都合により、講義日程は変更になる可能性もあるので、連絡に注意する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法*	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	窪田	1. 政策とは 2. 医療・看護と政策のつながり 3. 看護政策にはどんなものがあるか 4. 関心ある医療・看護上の問題を考えてみよう	講義	[予習] ニュースなどを調べ（キーワードを参考に）、関心ある医療・看護の問題を考えておく。（学習時間2時間） [復習] ディスカッションした内容も含めて、自分の関心のある看護政策の課題について再度考え、整理する。（学習時間2時間） [キーワード] 医療法、保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律、看護の将来ビジョン	

2	窪田	自分の関心ある医療・看護政策の現状と課題についての発表	講義 ディスカッション	<p>[予習] ニュースなどを調べ（キーワードを参考に）、関心ある医療・看護の問題を考えておく。（学習時間2時間）</p> <p>[復習] ディスカッションした内容も含めて、自分の関心のある看護政策の課題について再度考え、整理する。（学習時間2時間）</p> <p>[キーワード] 医療法、保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律、看護の将来ビジョン</p>
3	伊勢田	1. 看護政策の決定過程 2. 看護政策実現の例	講義 ディスカッション	<p>[予習] 自分の関心ある医療・看護の問題について、問題点や疑問点を明確にしておく。（学習時間2時間）</p> <p>[復習] 看護政策立案における看護職の役割について整理しておく。（学習時間2時間）</p> <p>[キーワード] ロビー活動、パブリックコメント</p>
4	伊勢田	3. ロビー活動とは 4. 政策立案における看護職の役割	講義	<p>[予習] 自分の関心ある医療・看護の問題について、問題点や疑問点を明確にしておく。（学習時間2時間）</p> <p>[復習] 看護政策立案における看護職の役割について整理しておく。（学習時間2時間）</p> <p>[キーワード] ロビー活動、パブリックコメント</p>
5	橋本	看護政策立案における日本看護協会の役割	講義	<p>[予習] 日本看護協会の役割についてホームページや書籍で調べ、看護職個人とどのような関係にあるか、自分なりに整理しておく。（学習時間2時間）</p> <p>[復習] 日本看護協会の役割と現在の重点政策について整理しておく。（学習時間2時間）</p> <p>[キーワード] 日本看護協会、労働環境、人材確保</p>
6	橋本	看護政策立案における日本看護協会の役割	講義 ディスカッション	<p>[予習] 日本看護協会の役割についてホームページや書籍で調べ、看護職個人とどのような関係にあるか、自分なりに整理しておく。（学2時間2時間）</p> <p>[復習] 日本看護協会の役割と現在の重点政策について整理しておく。（学習時間2時間）</p> <p>[キーワード] 日本看護協会、労働環境、人材確保</p>
7	石田	1. 政策の決定過程 2. 政策決定における国会議員の活動の実際 3. 保健医療政策の今後	講義 ディスカッション	<p>[予習] 国会議員の役割について調べ、疑問点を明確にしておく。（学習時間2時間）</p> <p>[復習] 授業を踏まえ、自分自身の考え方や社会問題を見る視点がどのように変化したか、整理しておく。（学習時間2時間）</p> <p>[キーワード] 国会、国会議員、保健医療福祉政策</p>
8	大西	看護管理、看護実践と関連する法律・制度	講義	<p>[予習] 診療報酬制度、個人情報保護法、特定行為に係る看護師の研修制度について調べておく。（学習時間2時間）</p> <p>[復習] 授業を踏まえ、看護実践と制度・法律のつながりについて理解したことを整理しておく。（学習時間2時間）</p> <p>[キーワード] 診療報酬制度、個人情報保護法、特定行為に係る看護師の研修制度、地域包括ケアシステム</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	救急看護	必修・選択	選択
英語科目名	Emergency and Critical Care Nursing	対象学年	4年生
開講学期	前期	単位数	1単位
代表教員	田中 朋子	ナンバリング	ANL41A1
担当教員	田中 朋子、池田 恵、阿久澤 優佳、佐野 裕子、松田 繁	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	<p>急病や事故、災害などにより健康状態が急激に変化した人々や家族の特徴を踏まえた看護を実践するために必要な基礎知識と科学的根拠に基づいた看護実践について学ぶ。</p> <p>健康状態が急激に悪化した人々を救う救急医療の一部に位置づけられる救急看護では、緊急度・重症度を基軸に急性の状態にある患者の病態を適切に評価し、処置や治療に迅速に対応するために必要な援助の在り方を理解し、患者や家族の心理的危機状態に対応し、治療優先になりがちな状況下で患者や家族の自立性を最大限に尊重するための看護実践について考える。</p> <p>また、救急患者における主要病態、救急搬送事例を用いた学習を通して、診断がついていない状態から緊急的な処置や検査が行われる中で診断され、治療、救急外来から救急病棟入室等とつながる一連の流れを理解し、危機的状況にある患者や家族の特徴をふまえて対応する医療者としてのあるべき態度と患者の個別性を反映させた救急看護を実践していくための基礎知識とアセスメント能力を習得する。</p>			
授業の位置づけ	<p>健康状態が急激に悪化した人々の疾患は多岐にわたる。既習の臨床医学の知識は救急看護を学ぶ上で前提となる。大切な人の命を救う救急医療の一部に位置づけられる救急看護では、緊急度・重症度を基軸に危機的状況にある患者の病態を既に修得したフィジカルアセスメントの基礎知識と基礎看護方法論Ⅲで修得した技術を用い、的確にアセスメントできる能力が求められる。生命の危機的状況にある救急患者にケアや処置、治療を迅速に提供するためには、基本的な基礎看護技術や成人看護方法論で学んだ原理原則に則した看護技術の励行が不可欠となる。様々な発達段階にある患者や家族の心理的危機状態に対応し、治療優先になりがちな状況下で患者や家族の自律性を最大限に尊重するためには、小児看護方法論、成人看護学概論、成人看護方法論、高齢者看護方法論、精神看護方法論の知識の修得が基盤となる。</p>			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>【該当するコンピテンシー】</p> <p>本科目を学習することで、以下の能力の基礎が身につきます。</p> <p>○DP2-I、○DP2-II、◎DP2-III、○DP3-I</p>			
到達目標	<p>(1)救命救急時や災害時の救急医療の実際を知る。</p> <p>(2)救急医療に関連する看護の専門分野の特徴と多職種との連携の在り方について説明することができる。</p> <p>(3)救急外来や救急病棟における患者家族の特徴と医療看護活動について、説明することができる。</p> <p>(4)急変時や救急時の事例を検討し、対象者の状態に応じた看護実践の方法を判断して実施、評価することができる。</p>			
先修要件	なし			
関連科目	臨床医学、フィジカルアセスメント、基礎看護方法論Ⅲ、成人看護学概論、成人看護方法論、小児看護方法論、高齢者看護方法論、精神看護方法論			
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の一次救命処置（BLS）の基本的方法を復習し授業に臨むこと。 ・授業には予習をし主体的に臨むこと。 ・提示した復習内容を必ず実施すること。 ・演習やグループワークでは、グループメンバーと主体的に意見交換をおこなうこと。 			
成績評価の方法				
評価方法	筆記試験（50%）、演習発表（30%）、授業内レポート（10%）、ミニテスト（10%）により評価する			
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・救急医療に関連する看護の専門分野の特徴と多職種との連携の在り方について説明することができるか ・基本的看護の方法をおさえ、対象者に合った看護を学生同士で考察、実践することができるか ・対象者の個別性に応じた具体的な看護方法を提案することができるか 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
課題レポート、グループワーク、プレゼンテーションについては、授業内でフィードバックする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
成人看護学急性期看護Ⅱ救急看護・クリティカルケア	佐藤まゆみ	南江堂	978-4-524-24164-4	
参考文献				
適宜紹介				
その他				
連絡先・オフィスアワー	田中 朋子 随時（事前にメールで連絡の事 tmtanaka@）			
備考	成人看護学急性期看護Ⅱ救急看護・クリティカルケア 佐藤まゆみ 南江堂 978-4-524-24164-4 必ず購入してください。			

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	田中 朋子	授業ガイダンス ・救急医療の現状 ・歴史と動向 ・救急医療体制 ・プレホスピタルケア ・救急医療と関連法令 ・救急看護とは ・緊急度と重症度の判断 [キーワード] 救急医療体制、プレホスピタルケア、多職種連携、蘇生法（ガイドライン）、救急看護、危機モデル、重症度、緊急度、トリアージ、JCS（ジャパンコーマスケール）、GCS（グラスゴーコーマスケール）、ECS（エマージェンシーコーマスケール）、生命維持機能モニタリング	講義	[予習] ・救命救急看護における自己の課題について考えてくること。 ・キーワードについて、緊急度と重症度の判断について事前学習を行うこと。（学習時間：2時間） [復習] ・授業資料になる授業計画を確認し、授業全体のイメージをつかむ ・救急看護の対象である患者の身体的特徴、心理的特徴について整理する。（学習時間：2時間）
2	阿久澤 優佳	救命救急処置 ・一次救命処置：BLS ・心肺蘇生 ・その他の救急処置 [キーワード] BLS（一時救命処置）、胸骨圧迫、電氣的除細動、酸塩基平衡、救急カート	講義	[予習] 配布資料を基に一次救命処置のCABDを復習しておく。（学習時間：2時間） [復習] 一次救命処置のCABDについて説明できるよう振り返る。（学習時間：2時間）
3	池田 恵	事例で考える救急看護、救命救急処置 [キーワード] 病歴聴取（SAMPLE+OPQRST）、適切な報告：SBAR、胸痛、急性心筋梗塞、大動脈内バルーンパンピング（IABP）、経皮的肺補助法（PCPS）、ACLS（二次救命処置）、ICU-AW、PICS	講義	[予習] キーワードについて事前学習を行うこと。（学習時間：2時間） [復習] 授業内容を振り返り、整理する。（学習時間：2時間）
4	田中 朋子、池田 恵、阿久澤 優佳	事例検討（グループワーク） 提示した救急患者の事例について、診断、検査、処置、看護、連携まで一連の流れを考慮し、患者の個性を反映させながら基礎知識を基にアセスメントした内容と援助方法について、自己の記述内容を基にグループワークで検討し、パワーポイント発表と実演発表の準備をおこなう	グループワーク	[予習] 事前に配布した事例課題の個人ワークを終わらせておく。また、グループ討議に必要な参考資料を準備する。（学習時間：2時間） [復習] グループで検討した内容と、自己の事前課題内容を比較検討し良い点や改善点について明らかにする。また、7回目の授業で発表できるよう役割分担をし、発表資料の準備を行う。（学習時間：2時間）
5	田中 朋子	・救急医療と倫理 ・家族看護 ・意思決定支援 [キーワード] 救急看護、危機モデル、生命倫理の4原則、自己決定の尊重、インフォームド・コンセント、事前指示（アドバンスディレクティブ）、リビングウィル（終末期の医療行為に対する意思表示） DNAR（do not attempt resuscitation:蘇生拒否）指示、POLST（physician orders for life sustaining treatment:生命維持治療に関する医師の指示）、人の命の尊さ（sanctity of life :SOL）、代理意思決定	講義	[予習] ・キーワードについて事前学習を行うこと。（学習時間：2時間） [復習] ・救急看護の看護倫理、臨床推論について整理する。（学習時間：2時間）
6 4月26日 (金)	佐野 裕子	急性期のリハビリテーション [キーワード] 早期離床、Early mobilization、呼吸理学療法、ICU-AW、PICS、ARDS	講義	[予習] COPD急性増悪、ARDS、PICS、フィジカルアセスメントについて復習する。（学習時間：2時間） [復習] 授業内容を振り返り、急性期リハビリテーションにおける看護師の役割を整理する。（学習時間：2時間）
7	田中 朋子、池田 恵、阿久澤 優佳	事例発表会	事例発表	[予習] 発表ができるように役割分担等、必要な準備をしておく。（学習時間：2時間） [復習] 発表から事例課題の内容で不足していた部分等について振り返る。また、授業を通して救急看護における事故の課題について考える。（学習時間：2時間）
8	松田 繁	救急医療と救急患者の特徴 [キーワード] 緊急度と重症度 一次評価と二次評価、救急看護、災害医療、DMAT（災害派遣医療チーム）、敗血症、多臓器機能障害症候群（MODS）、多臓器不全（MOF）	講義	[予習] キーワードについて予習し、救急看護の役割について考えてくる。（学習時間：2時間） [復習] 授業内容をもとに、救急医療の実際における救急看護の役割について考える。（学習時間：2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	統合実習	必修・選択	必修
英語科目名	Integrated Nursing Practicum	対象学年	4年
開講学期	前期	単位数	2単位
代表教員	湯浅 美千代	ナンバリング	ANL42A2
担当教員	看護学系専任教員※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	既習の学習内容を基盤として、学生自身が選択した分野の専門的・応用的実践に取り組むことを通じて、看護実践能力を高める。				
授業の位置づけ	4年間の講義・演習・実習を統合し、選択した分野での実習を通して専門的・応用的な看護実践能力を高める。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP5-I、○DP2-I、○DP2-II、○DP2-III				
到達目標	1) 選択した分野の専門的・応用的な実践活動を展開できる。 2) 実習成果をレポートにまとめることができる。				
先修要件					
関連科目	既習の学習内容全般				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの看護学および関連領域の講義・演習・実習内容を復習し、看護実践能力を高めるための自身の学習課題を明確にしておくこと。 ・選択した分野ごとに技術の復習、文献検討、自己の課題の明確化、実習計画作成などの事前課題が提示される。担当教員によく確認を取り、十分に準備をして臨むこと。 ・3年の1～3月に分野選択の調整を行う。 				
成績評価の方法					
評価方法	実習内容・実習への取り組み状況（70%）、レポート（30%）を総合して評価する。				
評価基準	1) 実習において、求められた看護実践活動を展開できたか。 2) 実習成果をレポートにまとめることができたか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>実習中、適宜担当教員からコメントする。 実習記録・レポートは実習終了後に各担当教員からコメントを付けて返却する。</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
各担当教員の指定による。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	不明な点などは科目責任者（湯浅）myuasa@または、担当教員にメール連絡してください。				
備考	なし				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
	湯浅美千代	実習オリエンテーション（目標、注意事項等の説明）	オリエンテーション	予習：（学習時間：2時間） 既存の学習内容を振り返り、実習分野で学びたいことを、看護実践上の自身の課題と関連づけて述べる。 関連する講義・演習・実習の内容を整理しておく。 復習：（学習時間：90分） 各分野の実習内容を参照し、自身の課題にどのように取り組むことができるかを述べる。
	各担当教員	各分野のオリエンテーション（実習場所、内容等の提示、事前課題等の提示）	オリエンテーション	予習：（学習時間概ね2時間） 実習分野で学びたいことや自己の課題を整理し、担当教員と話し合えるように準備しておく。 各分野で提示された課題に取り組む。 復習：（学習時間概ね2時間） 各分野で提示された課題に取り組む。 担当教員と共に実習計画の立案を進める。
	各担当教員	配置された分野で2週間の実習を行う。	実習	予習：（学習時間：90～120分） 実習分野および関連領域の講義・演習・実習内容を復習する。 各分野で提示された課題に取り組む。 担当教員の指示に従い、実習計画を洗練させる。 復習：（学習時間：90～120分） 実習記録を整理する。 レポート課題に取り組む。 実習記録やレポートに対するフィードバックを活用して、実習から得られた学びを整理する。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	順天堂の先端医療と看護	必修・選択	選択
英語科目名	Advanced Healthcare&Nursing in Juntendo	対象学年	2～4年
開講学期	前期	単位数	1単位
代表教員	長瀬 雅子	ナンバリング	ANL44A2
担当教員	長瀬雅子※、櫻井順子※、内藤俊夫※、辻村晃※、大山彦光※、松田雅弘※、手塚さつき※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	診断法の進歩、高度先進医療や先端医療等の新しい知識も含めて、現在の医療を理解する。さらに現在の医療システム、チーム医療（専門職間連携）、看護・医療の継続性について学ぶ。これらの医療の持つ社会的側面や倫理的側面についての考察も深める。			
授業の位置づけ	医療は情報技術、システム工学、ロボット工学などの科学技術の発展とともに、診断法、治療法、医療提供システムなどが目まぐるしく変化しており、保健医療システムにおける専門職の役割や連携のあり方も柔軟に対応する必要がある。教育・研究の中心である大学と特定機能病院としての役割を担う大学病院における先端的な取り組みの一端を知ること、生涯学習の視点を養う。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ODP1-III ODP2-I ODP3-I ODP5-I			
到達目標	1) 我が国の医療システムの概要と高度医療を提供する医療機関の役割と機能について説明できる。 2) 順天堂が特定機能病院、高度急性期医療、地域医療支援病院等の役割を担うなかで、大切にしている看護の役割と機能を理解する。 3) 先進医療、高度先端医療等の知識を得るとともに、これらの医療の持つ社会的側面、倫理的側面について考え、意見を述べることができる。また、看護職および各専門職種との役割と多職種連携・協働、また課題について説明できる。			
先修要件	なし			
関連科目	臨床医学Ⅰ・Ⅱ、看護管理学			
学修上の注意	現代の保健医療福祉をとりまく諸問題に関心をもつとともに、高度・先端医療を提供する医療施設及びそこで働く看護職の役割について考えることを期待する。			
成績評価の方法				
評価方法	課題レポート 50%、日々の学習状況；予習課題、質疑への積極的な参加 50%			
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・高度医療や先端医療などの医療を含めた、現在の医療の仕組みについて述べるができるか。 ・高度医療、先端医療における看護師の役割、ならびにチーム医療や医療の継続性における現状と課題について述べるができるか。 ・現代医療の倫理的課題について述べるができるか。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
フィードバックの方法は、授業内で提示する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
参考文献				
適宜参考文献や資料を提示する。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	長瀬雅子 mnagase@juntendo.ac.jp ※質問、コメントはメールで受け付けます。直接話す方が良い場合は、不在にしていることがあるので、先にメールでご連絡ください。			
備考	特になし。講義時に資料を配布する。			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法*	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	長瀬雅子	現代の保健医療システムの概要と将来の課題	講義	<p>[予習] 医療法、病院の分類と設置基準について勉強してくる。 (学習時間60分)</p> <p>[復習] 授業時間内に指示する。 (学習時間60分)</p> <p>[キーワード] 医療制度、病院の分類と機能、特定機能病院、先端医療、専門職間連携、医療の継続性、専門職倫理</p>

2	長瀬雅子	看護におけるDx化は可能か	講義	<p>[予習] 医療に取り入れられているICTは何かを調べてくる。 (学習時間60分)</p> <p>[復習] 授業時間内に指示する。 (学習時間60分)</p> <p>[キーワード] 情報通信技術 (ICT)、セルフマネジメント、アプリケーションソフトウェア (App)</p>
3	辻村晃	ロボット支援手術等について	講義	<p>[予習] ロボット支援手術について予習する。 (学習時間60分)</p> <p>[復習] 授業時間内に指示する。 (学習時間60分)</p> <p>[キーワード] ロボット支援手術</p>
4	松田雅弘	理学療法におけるロボット・AIの活用	講義	<p>[予習] 理学療法士の役割とリハビリテーションにおける多職種連携について復習してくる。 (学習時間60分)</p> <p>[復習] 授業時間内に指示する。 (学習時間60分)</p> <p>[キーワード] 理学療法、リハビリテーション、AI、ロボット、EBP</p>
5	内藤俊夫	国際化への対応	講義	<p>[予習] グローバル化によって生じる健康上の諸問題について復習しておく。 (学習時間60分)</p> <p>[復習] 授業時間内に指示する。 (学習時間60分)</p> <p>[キーワード] 医療ツーリズム、国際化、感染症</p>
6	大山彦光	メタバースの臨床応用	講義	<p>[予習] 遠隔医療とその課題、VRやAIなどのデジタル技術を活用する上での課題について調べ、まとめておく。 (学習時間60分)</p> <p>[復習] 授業時間内に指示する。 (学習時間60分)</p> <p>[キーワード] メタバース、VR、AI、遠隔医療、倫理</p>
7	手塚さつき	特定機能病院の役割と看護	講義	<p>[予習] 病院の機能分類、多職種連携、他機関・部署間連携について復習し、看護の役割について自身の考えをまとめておく。 (学習時間30分)</p> <p>[復習] 授業時間内に指示する。 (学習時間60分)</p> <p>[キーワード] 特定機能病院、看護、地域連携</p>
8	櫻井順子	順天堂の看護	講義	<p>[予習] 順天堂の歴史と、看護の役割について復習する。 (学習時間60分)</p> <p>[復習] 授業時間内に指示する。 (学習時間60分)</p> <p>[キーワード] 順天堂、先進医療、先端医療、国際認証</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	ナーシング・スキルアップ	必修・選択	選択
英語科目名	Nursing Skill Advancement	対象学年	4年
開講学期	後期	単位数	1単位
代表教員	齋藤 雪絵	ナンバリング	ANL43A1
担当教員	齋藤雪絵※、村越春那※、鈴木小百合※、高梨あさき※、久津呂唯※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	4年間に学んだ既習の知識と技術を用いて、複雑な健康問題をもつ対象者への適切な看護を提供するためのエビデンスに基づいた臨床実践能力を身につける。事例課題に沿った実践的なシミュレーション学習を通して臨床実践能力を身につけることができる。			
授業の位置づけ	臨床現場で看護職として職務を全うするために必要となる臨床実践能力を育成する。全ての講義・実習が終了している4年生後期に開講されることから、4年間で学習した知識、技術、態度の総まとめとして位置づける。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ODP2-I、◎DP2-II、ODP2-III、ODP5-I			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の知識・技術を振り返り、自己の課題を見出し、解決方法を提案することができる。 2. 適切な看護を提供するための臨床判断に至った思考のプロセスを説明することができる。 3. 実践的なシミュレーション学習を行うことで、臨床実践能力を身につけることができる。 4. 複雑な健康問題を持つ事例患者に対して適切な看護を提供することができる。 5. 自律した学習を行い、自己の強み・弱みを明確にし、自己研鑽に努めることができる。 			
先修要件	なし			
関連科目	基礎看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護理論・看護過程、フィジカルアセスメント、小児看護方法論、成人看護方法論、高齢者看護方法論、精神看護方法論、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ、母性看護方法論、等			
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4年間の学びを振り返り、自己の課題を明確にして学習に取り組む。 ・ 本科目では、全ての事例について実際の看護場面を再現したシミュレーション学習で行う。 ・ 事例課題ごとの演習計画は、実践できる計画を立案し、シミュレーション学習がスムーズに実施できるように準備する。 ・ シミュレーションは、事例課題ごとに1人1回、実践できるようにする（履修人数により変更する可能性あり）。 ・ テキストや参考文献、eラーニングなどの複数の教材を活用して主体的に学習をすすめる。 ・ グループディスカッションを通して学びを共有したり、疑問点など解決する。 			
成績評価の方法				
評価方法	授業への取り組み30%、演習計画・事後レポート40%、課題レポート20%、学びの発表10%を総合して評価する。			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題となる事例についての演習計画を不足なく実践可能な計画を立案し、授業に臨んでいる。 2. 適切な看護を提供するための臨床判断に至った思考プロセスを自分の言葉で説明することができる。 3. シミュレーション学習で実践した技術は、患者の安全・安楽、自己の安全が守られている。 4. シミュレーション学習で実践した技術は、適切な時間内に実践できている。 5. 授業を通して学んだこと、自分自身の今後の課題についてレポートに記述している。 6. 授業を通して学んだことについて相手に伝わる発表が実施できている。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
提出された事後レポート、課題レポートは、コメントを記述し返却する。 シミュレーション学習中に実践した技術は、授業内にフィードバックし、より事例患者に適した方法を検討する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ	茂野 香おる	医学書院	978-4-260-04211-6	
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	有田 清子	医学書院	978-4-260-04212-3	
看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメントがみえる		メディックメディア	978-4-89632-781-6	
eラーニング（ナーシング・スキルなど）		ELSEVIER		
参考文献				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版」 株式会社メディックメディア 2018年 2. 「看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版」 株式会社メディックメディア 2018年 3. 「学ぶ・活かす・共有する 看護ケアの根拠と技術 第3版」 医歯薬出版株式会社 2018年 				
その他				
連絡先・オフィスアワー	<連絡先・オフィスアワー> 齋藤雪絵：ysaito@ 随時（事前にメールで連絡をください） 村越春那：h.murakoshi.fo@ 随時（事前にメールで連絡をください）			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1・2	齋藤、村越	1. 授業ガイダンス <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の進め方 ・ 学習方法について ・ 評価方法について 2. シミュレーション学習とは <ul style="list-style-type: none"> ・ シミュレーション学習とは ・ シミュレータの使用方法的説明 3. 臨床判断とは	講義・演習	【予習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの授業、実習を通した自己の課題についてまとめる。(学習時間60分) 【復習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習に必要な知識、技術を再確認する。(学習時間60分)
3・4	齋藤	1. 課題1のシミュレーション学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ グループで演習計画の意見交換 ・ シミュレーションの実施（個人で行う） ・ デブリーフィング ・ グループでの学びの共有 ・ まとめ 2. 課題2-1の説明 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例についての説明 ・ 援助計画の立案 	演習	【予習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題1についての援助計画を立案する。(学習時間60分) 【復習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習計画を修正、追記し、不足した内容について必要な知識、技術を再確認する。(学習時間60分)
5・6	村越	課題2-1 <ul style="list-style-type: none"> 1. 課題2-1のシミュレーション学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ グループで演習計画の共有、検討 ・ シミュレーション実施 ・ デブリーフィング ・ グループでの学びの共有 ・ まとめ 2. 課題2-2の説明 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例についての説明 ・ 援助計画の立案 	演習	【予習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題2-1についての援助計画を立案する。(学習時間60分) 【復習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習計画を修正、追記し、不足した内容について必要な知識、技術を再確認する。(学習時間60分)
7・8	齋藤	3. 課題2-2のシミュレーション学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 一次救命（BLS）についての説明 ・ グループで演習計画の共有、検討 ・ シミュレータを用いた技術練習 ・ 5～6名で医療チームを組み、急変時の一場面を経験 ・ デブリーフィング ・ グループでの学びの共有 ・ まとめ 	演習	【予習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題2-2についての援助計画を立案する。(学習時間60分) 【復習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習計画を修正、追記し、不足した内容について必要な知識、技術を再確認する。(学習時間60分)
9・10	齋藤	自分が習得したい（苦手とする）技術や課題1・課題2の事例から見直しが必要となった技術を繰り返し実践する。以下の看護技術を実施し、手順と根拠を確認する。内容は、個人によって異なる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ フィジカルアセスメント ・ ベッドメイキング ・ 移乗 ・ 体位変換 ・ 寝衣交換 ・ 洗髪 ・ 足浴 ・ 陰部洗浄、オムツ交換 ・ 静脈血採血 ・ 注射（皮下、筋肉、静脈内） ・ 一時的導尿・持続的導尿 ・ 洗腸 ・ 経管栄養 他 	演習	【予習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題1～2を通して不足していた技術について、テキスト・動画で手順、根拠を確認する。(学習時間60分) 【復習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 再習得した技術についての活用方法、観察ポイントについて、確認しまとめる。(学習時間60分)

11・12	齋藤	<p>課題3（多重課題：2人の患者を受け持つ事例を予定している）</p> <p>3. 課題3のシミュレーション学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ グループで演習計画の意見交換 ・ シミュレーションの実施（個人で行う） ・ デブリーフィング ・ グループでの学びの共有 ・ まとめ <p>[キーワード] 多重課題、優先順位</p>	演習	<p>[予習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題3についての援助計画を立案する。（学習時間60分） <p>[復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習計画を修正、追記し、不足した内容について必要な知識、技術を再確認する。（学習時間60分）
13・14	齋藤、村越	課題1～3まとめ	講義、グループワーク	<p>[予習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題1～3について疑問があればまとめておく。 ・ 学習成果の発表準備をする。（学習時間120分） <p>[復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 疑問に思った点や必要となる知識、技術を再確認する。（学習時間60分）
15	齋藤、村越	学習成果の発表	グループワーク、発表	<p>[予習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習成果の発表準備をする。（学習時間60分） <p>[復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 疑問に思った点や必要となる知識、技術を再確認する。（学習時間60分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	災害看護	必修・選択	選択
英語科目名	Disaster Nursing	対象学年	4年
開講学期	前期	単位数	1単位
代表教員	櫻井 しのぶ	ナンバリング	ANL41A2
担当教員	櫻井しのぶ※、杉田学※、野村智久※、中西唯公※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	災害による人や社会への影響、災害に対する社会的対応システム（発災前の準備、発災後の対応等）、国際的視野から捉えた災害看護の在り方等を理解し、災害に対する看護職の役割を学修する。また、災害医療活動に必要な基本的な知識及び技術やその方法について学び、他の医療職者や他職種と連携した支援の在り方を学修する。				
授業の位置づけ	災害による人や社会への影響、災害に対する社会的対応システム（発災前の準備、発災後の対応等）、国際的視野から捉えた災害看護の在り方等を理解し、災害に対する看護職の役割を学び、災害医療活動に必要な基本的な知識及び技術・方法と他職種と連携した支援の在り方を学修することで、既習の看護や科目を統合する位置づけとなる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP2-I ○DP2-II ○DP2-III ○DP3-I ○DP4-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害による人や社会への影響について説明できる。 2. 災害に対する社会的対応システム（発災前の準備、発災後の対応等）について説明できる。 3. 災害時要援護者への支援内容と課題について説明できる。 4. 地域における災害保健活動について説明できる。 5. 災害時の国際的看護活動の重要性と課題について説明できる。 6. 日本のDMAT活動内容と連携について説明できる。 7. トリアージの考え方とその方法を修得する。 				
先修要件	なし				
関連科目	地域生涯保健活動論、救急看護				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1) 既習の知識を活用し、学修に臨むこと。 2) 講義に出されている演習課題についても積極的に取り組む。 3) 演習には全出席を求める。 4) 災害看護において関連する知識として、同時期に学修する「救急看護」と関連付けながら授業に臨む。 5) 地域生涯保健活動論での学びを復習しておく。 				
成績評価の方法					
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) レポート課題(70%) 2) 各講義の課題や演習の取り組み状況(30%) 				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害による人や社会への影響について説明できる。 2. 災害に対する社会的対応システム（発災前の準備、発災後の対応等）：災害サイクルに応じた内容について説明できる。 3. 災害時要援護者への支援内容と課題について説明できる。 4. 地域における災害保健活動について説明できる。 5. 災害時の国際的看護活動の重要性と課題について説明できる。 6. 日本のDMAT活動内容と連携について説明できる。 7. トリアージの考え方とその方法を修得する。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>課題や演習における評価は全体を総括して、講義の中でフィードバックする。 其々の講義における課題の回答やレポートの記載内容にて到達目標の達成度を判断する。 課題等に対するフィードバックの希望者には随時メールで受け付ける。</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
酒井明子他、災害看護、南江堂、2018。 適時提示します。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	・随時（事前にメールで連絡のこと ssakura@juntendo.ac.jp まで）				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	櫻井しのぶ	1) 災害・災害看護の概念と歴史 2) 災害サイクルと災害の種類と疾病構造 3) 災害発生時の社会システム 災害に関する制度 災害時の支援体制 災害時のリスクコミュニケーション 4) 災害サイクル別における看護活動 5) 災害時の多職種連携の在り方	講義	[予習] 自然災害の概要について調べてくる。(学習時間2時間) [復習] 関心を持った過去の災害について調べ再考する。(学習時間2時間)
2	櫻井しのぶ	災害における支援の実際 1) 災害要援護者への看護 2) 災害時のメンタルヘルス 3) 災害特有の疾病 4) 災害時における避難所での健康管理	講義	予習 災害時における要援護者の人がどのようにダメージを受けているのかネット等で調べておく(学習時間2時間) [復習] 災害時の支援者として被災者への声掛けにどのように気を遣うべきなのかサイコロジカルファーストエイドのサイトを閲覧して、自分の考えとしてまとめる。(学習時間2時間)
3	中西唯公	地域における災害保健活動 1) 平常時の災害予防対策と保健師活動 ① 地域の実態把握 ② 住民の実態把握 ③ 自治防災活動などのネットワークづくり ④ 地域防災の実際 2) 災害時の保健師活動の実際 ① 急性期・亜急性期の地域保健活動 ② 復旧・復興時の地域保健活動 3) 長期の災害後の地域復興支援における看護職の役割やその支援の実際	講義	[予習] 地域における復興の例をネットで探して、実際の課題は何かについて調べる。(学習時間2時間) [復習] 東日本大震災や今までの水害被害にあった地域のその後の復興において何が問題でどのような解決が可能であるのか? 今までの講義を参考に自分の考えをまとめる。(学習時間2時間)
4	杉田学	1) 国外における災害時の支援活動 ① 国際緊急援助の概要 ② 国際的な災害時緊急援助の支援調整体制 2) 国際緊急援助における看護師の役割 3) 国際緊急援助隊医療チームと救助チームの活動	講義	[予習] 1回~3回の授業を復習し参加する。(学習時間2時間) [復習] 授業の内容を振り返り、授業で触れなかった海外における災害についてもその概要を調べる。(学習時間2時間)
5	野村智久	国内における災害時の支援活動 1) 災害時における医師の役割 2) 災害時における看護師の役割 3) 災害時の他職種連携 4) 日本のDMAT活動 5) 災害計画と広域搬送 6) 災害時に必要な技術(トリアージ他)	講義 GW	予習] 前回の授業内容を復習し参加する。(学習時間2時間) [復習] 日本のDMATの現状を整理する。(学習時間2時間)
6	杉田学 野村智久	机上シミュレーション 発災時の初動とマネジメント 1) 災害時の初動 2) 人員配置とBCP 3) トリアージと根本治療 練馬病院を例に取り、その想定元に事例を展開しながらグループで災害が起こった時の対応を考え発表し、災害医療担当の医師や看護師らとディスカッションを行う。	講義 GW	[予習] 災害時の役割とトリアージの方法について調べる。(学習時間2時間) [復習] シミュレーションの重要ポイントを整理する。(学習時間2時間)
7&8	櫻井しのぶ 中西唯公	1) 災害支援及び看護活動に関する課題と展望(まとめ) 2) 国内外での災害後の地域保健活動の実際を事例と共に学ぶ	講義 GW	[予習] これまでの授業内容を整理し、災害時の支援に対する課題と展望をまとめ整理し参加する。(学習時間2時間) [復習] 8回の授業を通し、レポート整理に必要な情報収集をする。(学習時間2時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	多文化の医療と看護（海外研修）	必修・選択	選択
英語科目名	Multicultural Healthcare and Nursing	対象学年	2～4年
開講学期	通年	単位数	2単位
代表教員	櫻井 しのぶ	ナンバリング	ANL45A1
担当教員	櫻井しのぶ、若林律子、寺岡三左子、池田恵、金子育世、寺岡三左子、森田亜希子、宮本圭、板井麻衣、野村菜摘、中西唯公、グロウ デボラ アン	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	異文化を理解し、グローバルな視点での看護実践や研究の展開、異文化看護領域のリーダーシップに資する基礎的能力を養う。				
授業の位置づけ					
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	◎DP4-I、ODP1-II、ODP3-I、ODP5-I				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問国の文化について述べるができる。 2) 訪問国の看護教育、看護師の職域（APN, CNS, NP, NA, NM 等）、チーム医療について述べるができる。 3) 訪問国の保険制度・医療の現状と課題、日本と比較した長所・短所を述べるができる。 4) 訪問国の大学病院・総合病院における先端医療について述べるができる。 5) 訪問国の医療福祉保健関連施設等におけるケアについて述べるができる。 6) 訪問国の健康に関する信念と実践について述べるができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	看護学概論、フィジカルアセスメント、小児看護方法論、成人看護方法論、高齢者看護方法論、周産期の看護、ターミナルケア論、看護管理学、臨床医学Ⅰ、臨床医学Ⅱ、実践看護英語、英語多読多聴Ⅱ、医療英語講読				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問国によって違うが、最小催行人数は2名、最大催行人数は30名とする。催行人数が満たない場合は科目として成立しないことがある。 ・ 国内外の社会事情などにより催行不可能な場合もある。 ・ 研修に参加するには以下の条件を満たす必要がある。 <ol style="list-style-type: none"> 1) TOEFLスコアが400点以上かつ2回目以降のスコアが上昇していること。満たない場合は2023年4月のTOEFL受験を考慮する。 2) GPAが2年生は2.3以上、3-4年生は3.0以上であること。 ・ 教室での講義（浦安・訪問国）、訪問国での医療関連施設見学やシャドーイング実習などを行う。 ・ 訪問国での講義や演習は順天堂医療看護学部との協定や提携を結んでいる大学等で行う。 ・ 研修期間は各々の訪問国により違うが、大学の学生寮あるいはホテルに滞在する。 ・ 講義・医療施設見学等では研修場所によっては翻訳担当者が逐語訳を行うが、ほとんどの研修場所においては通訳は無い状態であるので、講師・施設紹介担当者に英語で質問すること。かなりの英語力を必要とするため、自主的にも語学力を磨いておく。 ・ 提示した予習、復習は必ず行うこと。 ・ 研修終了後、研修の成果について報告書を作成する。内容には以下の点を含める。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問国の文化、看護、医療に関して新しく学んだこと 2) 健康に関する信念と実践についての訪問国と日本との比較 3) 自分自身のビジョンの変化 				
成績評価の方法					
評価方法	日々の学習状況 40%、レポート 60%				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問国の文化について述べるができるか。 ・ 訪問国の看護教育、看護師の職域（APN, CNS, NP, NA, NM 等）、チーム医療について述べるができるか。 ・ 訪問国の保険制度・医療の現状と課題、日本と比較した長所・短所を述べるができるか。 ・ 訪問国の大学病院・総合病院における先端医療について述べるができるか。 ・ 訪問国の医療福祉保健関連施設等におけるケアについて述べるができるか。 ・ 訪問国の健康に関する信念と実践について述べるができるか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポートは、提出後2週間以内にフィードバックを行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
随時紹介					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと ssakura@ 迄）				
備考	随時紹介				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	金子 グロウ	浦安キャンパスでの講義 1. 日常生活英会話	講義	[予習] 英語での自己紹介の内容を考え、練習する。(学習時間60分) [復習] 入国審査・税関での対応、自己紹介、外食・ショッピング等、講義内で学んだ英会話を繰り返し練習する。(学習時間60分) [キーワード] 入国、自己紹介、生活における英会話
2	金子 グロウ	2. 日常生活英会話	講義	[予習] 英語での説明を考えながら折り紙の練習をする。日本文化(書道、花見、盆踊り、寿司屋等)について起源・特徴等を調べておく。(学習時間60分) [復習] 講義内で学習した内容を繰り返し練習する。サンキューカードを作成する。(学習時間60分) [キーワード] 日本文化紹介、ディスカッション
3	金子 グロウ	3. 医療英語、プレゼンテーション	プレゼンテーション	[予習] 事前に提示したテーマについてグループ学習し、スライドと発表原稿を作成する。(学習時間60分) [復習] アドバイスに沿ってスライド・原稿を修正し、プレゼンテーションの練習をする。医療関連の専門用語・イディオムを見直す。(学習時間60分) [キーワード] 医療英語、プレゼンテーション
4~6	櫻井しのぶ、 若林律子、寺岡三左子、池田恵、金子育世、森田亜希子、寺岡三左子、宮本圭、板井麻衣、野村菜摘、中西唯公、グロウデボラ アン	【訪問国での講義】 1. 訪問国の医療保健福祉制度について 2. 訪問国のヘルスケアシステム 3. 訪問国の看護制度や看護の役割について	講義、グループワーク	[予習] 日本の医療保険制度についてまとめる。(学習時間60分) [復習] 訪問国の保険制度、医療の現状と課題について振り返り、日本との比較における長所・短所をレポートに記述する。(学習時間60分) [キーワード] 社会保障制度、医療保険、ケアシステム、医療組織、看護管理
7~9	櫻井しのぶ、 若林律子、寺岡三左子、池田恵、金子育世、森田亜希子、寺岡三左子、宮本圭、板井麻衣、野村菜摘、中西唯公、グロウデボラ アン	【訪問国での講義】 1. 訪問国の看護実践における特性 2. 訪問国の看護教育 3. 訪問国の医療福祉保健関連施設における看護ケアの実践	講義、グループワーク	[予習] 日本における看護教育の仕方、看護ケアの特性や特徴、看護の役割についてまとめる。(学習時間60分) [復習] 訪問国の看護の現状と課題について振り返り、日本との比較における長所・短所をレポートに記述する。(学習時間60分) [キーワード] 看護ケア実践、看護教育、チーム医療 [講師] 未定
10	櫻井しのぶ、 若林律子、寺岡三左子、池田恵、金子育世、森田亜希子、寺岡三左子、宮本圭、板井麻衣、野村菜摘、中西唯公、グロウデボラ アン	訪問国での研究活動や国際交流の実践	演習	[復習] 順天堂大学における国際交流活動の実践を知り、考えたことをレポートに記述する。(学習時間60分) [キーワード] 国際学会、大学院、留学、共同研究
11~18	櫻井しのぶ、 若林律子、寺岡三左子、池田恵、金子育世、森田亜希子、寺岡三左子、宮本圭、板井麻衣、野村菜摘、中西唯公、グロウデボラ アン	【訪問国での演習】 1. 訪問国での大学・医療施設見学 2. 訪問国での看護現場の実践(病棟や福祉保健関連施設等で) 3. 訪問国の対象者毎の支援が必要な場面におけるケア活動 4. 看護教育の現場 5. 実際の看護師とのディスカッション * 訪問国によって演習を行う施設に違いがあるが訪問国においてそれぞれの目的を持って、国際的な視野のもとに、主体的に取り組み、質疑応答や討議などを行う。	演習、グループワーク	[予習] 日本における医療保健福祉制度の実践について関係法規等も含めて調べる。スケジュールに沿って見学もしくは演習を行う場所や施設が日本においてはどのようなかを調べておく。(各回ごとに学習時間60分) [復習] 見学や演習、実際の看護師等から聞いて学んだことや考えたことをレポートに記述する。(各回ごとに学習時間60分) [キーワード] 医療制度、ケアシステム、看護の役割
19	櫻井しのぶ、 若林律子、寺岡三左子、池田恵、金子育世、森田亜希子、寺岡三左子、宮本圭、板井麻衣、野村菜摘、中西唯公、グロウデボラ アン	【訪問国での看護学生との交流、研修のまとめ、総合討議】 1. 訪問国での看護学生との交流を通して、本国と日本の比較により発見した看護の実践や役割、課題などを話しあい、看護観を深める 2. 訪問国の保健医療福祉現場の見学や演習、現地での生活及び様々な交流を通して、国際的視野からみた人々の健康課題や看護の在り方、今後日本の看護職や看護学生に求められる役割や責任、多様な文化背景を持つ対象への看護支援の在り方などについて、プレゼンテーションを行い、討議をし、自分の考えを表現する。	グループワーク、プレゼンテーション	[予習] 事前に選択したテーマに関すること、訪問国での見学や演習で発見した内容を統合して、英語にてプレゼンするための準備を行う。(学習時間90分) [復習] 総合討議などを通して、訪問国と日本との比較において考えたことをレポートに記述する。(学習時間60分) [キーワード] 国際比較、異文化コミュニケーション、国際的な看護の課題

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)



順天堂大学 医療看護学部

浦安キャンパス

〒279-0023 千葉県浦安市高洲2-5-1

TEL:047-355-3111

[https://www.juntendo.ac.jp/
academics/faculty/nurs/](https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/nurs/)

学生番号	
氏 名	